

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-6

<28週> ヘルパンギーナ、手足口病 - 定点当たり報告数が10週
続けて前週より増加 / その他最新動向
<6月> 性感染症・薬剤耐性菌・結核について



注目すべき感染症
P.7

<腸管出血性大腸菌感染症> 第28週時点での本年の累積報告数は1,481
<ヘルパンギーナ> 第28週の報告数は19,967で、定点当たり報告数は
6.61



病原体情報
P.8

患者から分離・検出された病原体報告 - Vero毒素産生性大腸菌 /
咽頭結膜熱 / ヘルパンギーナ / 手足口病 / 無菌性髄膜炎



速報
P.9-12

エコーウイルス11型による無菌性髄膜炎の流行 - 北九州市 / 平成
13年度(2001/2002年シーズン)インフルエンザHAワクチン製造株
の選定について



海外感染症情報
P.13

スペインでレジオネラ症の流行 - 更新



感染症の話
P.14-17

麻疹
基本的に飛沫を介する人から人への感
染で、本邦では通常春から夏にかけて流
行し、その感染性は非常に高い



読者のコーナー
P.18



グラフ総覧(28週)
P.19-25



グラフ総覧(6月)
P.26-30



6月のデータ
P.31-34



28週のデータ
P.35-42



発生動向総覧

第28週コメント 7月19日集計分

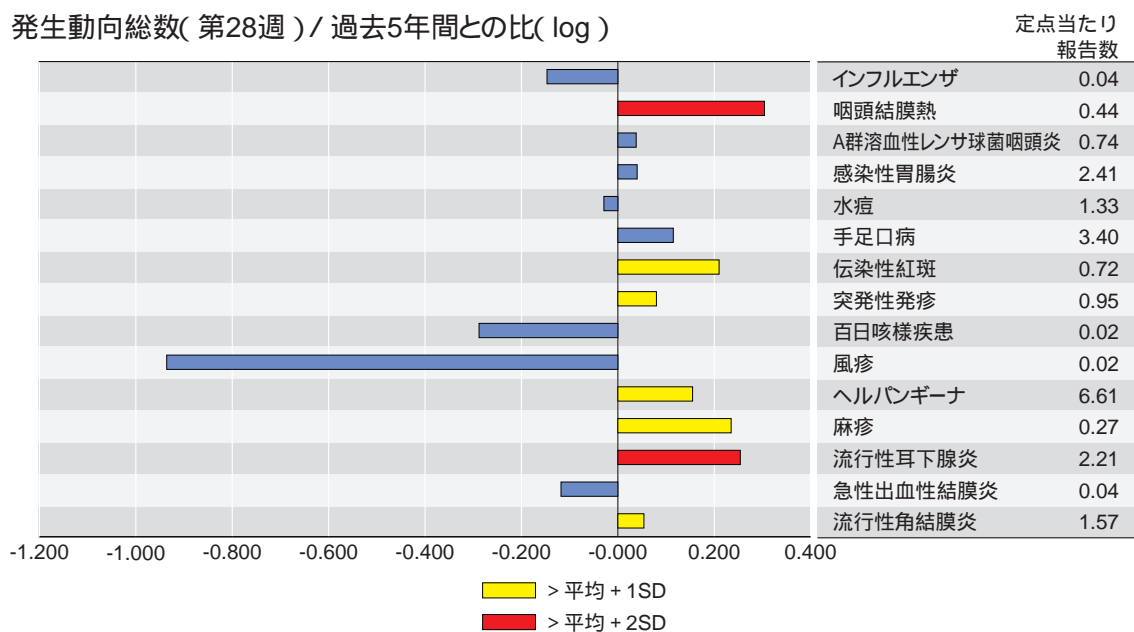
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ2例(推定感染地: 国内1例、タイ1例)
 - 細菌性赤痢8例(推定感染地: 国内1例、タイ2例、インドネシア2例、カンボジア1例、ウズベキスタン1例、インド1例)
 - 腸チフス3例(推定感染地: 国内2例、ネパール1例)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症135例(詳細は7ページ「注目すべき感染症」参照)
- 4類感染症: アメーバ赤痢4例、ジアルジア症1例、ツツガムシ病2例(岩手県、秋田県各1例)
 - 急性ウイルス性肝炎6例
 - A型4例
 - B型1例__感染経路: 調査中
 - C型1例
 - クロイツフェルト・ヤコブ病1例(孤発性)
 - 後天性免疫不全症候群8例(AIDS 1例、無症候性キャリア6例、その他1例)
 - 感染経路: 性行為8例(異性間5例、同性間3例)
 - 梅毒2例(早期顕症1例、無症候1例)
 - マラリア2例
 - 三日熱1例(推定感染地: アフリカ)
 - 型不明1例(推定感染地: ケニア)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

流行性耳下腺炎は、最近10年間の同時期と比較して最大の定点当たり報告数が続いており、都道府県別では石川県5.9、佐賀県5.0、福岡県4.5などの報告がある。咽頭結膜熱は、最近10年間の同時期と比較して最大の定点当たり報告数が2000年第41週から続いており、都道府県別では滋賀県1.3、大分県、静岡県各1.0などの報告がある。麻疹、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑、突発性発疹、流行性角結膜炎などの定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比較してやや多くなっている。

発生動向総数(第28週) / 過去5年間との比(log)

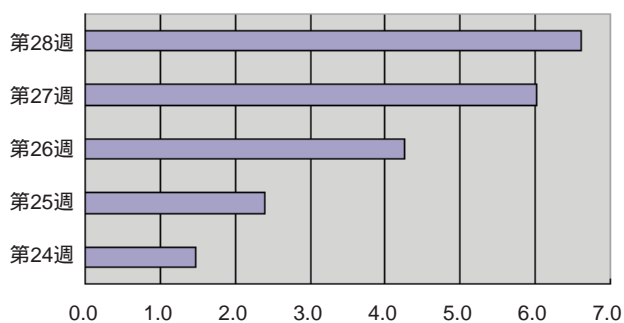


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

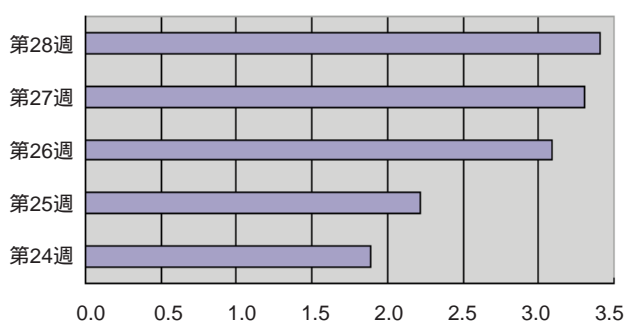
最近の注目疾患－5週間の動き

ヘルパンギーナ、手足口病の定点当たり報告数は、10週続けて前週より増加を示したが、手足口病についてはその増加の速度は鈍っている。咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎、無菌性髄膜炎の定点当たり報告数も前週より増加したが、咽頭結膜熱の増加の速度は未だ鈍っていない。

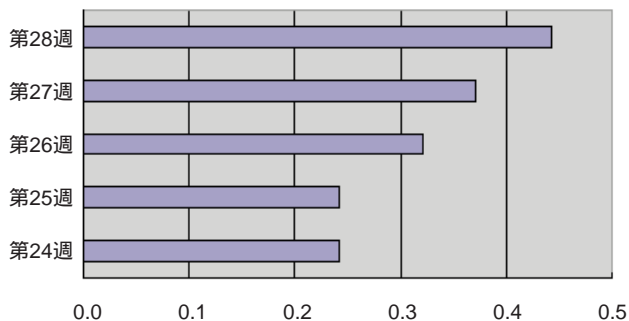
ヘルパンギーナ



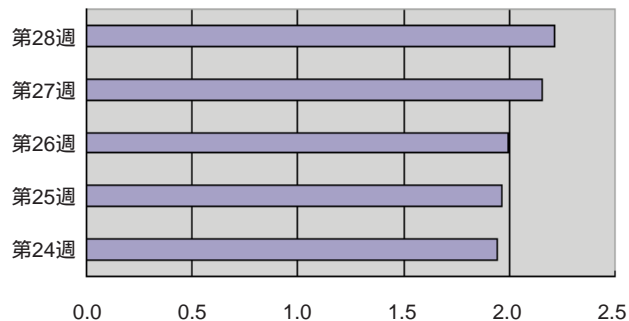
手足口病



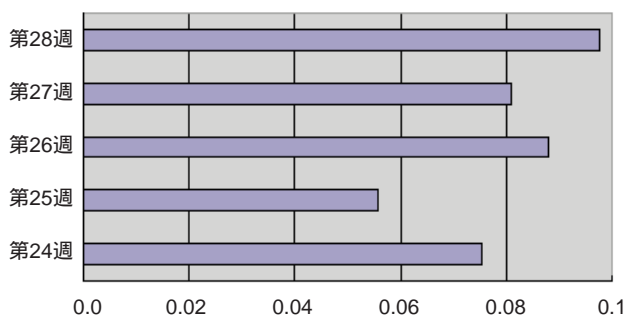
咽頭結膜熱



流行性耳下腺炎



無菌性髄膜炎



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。

6月コメント

性感染症について (7月9日集計分)

2001年6月の月別定点当たり患者報告数は、性器クラミジア感染症が3.81(男1.70、女2.12)、性器ヘルペスウイルス感染症が0.87(男0.40、女0.48)、尖形コンジロームが0.49(男0.26、女0.23)、淋菌感染症が1.89(男1.59、女0.31)で、4疾病のうち、男性では性器クラミジア感染症および淋菌感染症、女性では性器クラミジア感染症が多かった。いずれの疾病も、前月より増加、あるいは同じ水準にとどまっている(26~29ページグラフ総覧参照)。

定点当たり報告数を年齢階級別に比較すると、いずれの疾病でもピークは20~29歳にあったが、性器ヘルペスウイルス感染症では、50代以降の高年齢層からも一定の割合で報告されている。男女比は、性器クラミジア感染症(図1a)で1:1.25、性器ヘルペスウイルス感染症(図1b)で1:1.20、尖形コンジローム(図1c)で1:0.91、淋菌感染症(図1d)で1:0.19で、淋菌感染症では男性の占める割合が高い。いずれの疾病でも、若年齢層ほど女性の報告者数が多い傾向が認められた(6月の性感染症定点総数は903)。

各性感染症について、感染症法が施行された1999年4月以降の男女別月別定点当たり報告数を、継続して図2に示した。過去2年間の6月の報告数の平均±標準偏差(SD)は、性器クラミジア感染症が男1.52±0.13、女1.86±0.04、性器ヘルペスウイルス感染症が男0.42±0.06、女0.50±0.00、尖形コンジロームが男0.25±0.01、女0.20±0.03、淋菌感染症が男1.31±0.01、女0.24±0.02で上述の今月の報告数と比較すると、淋菌感染症は男女で、性器クラミジア感染症は女性で、平均+2SDを越えている。この2疾病は増加傾向にあると思われる。

【注】各性感染症のグラフ総覧の月別定点当たり報告数の1999年3月と4月間で生じたギャップ、および本発生動向調査で得られる患者報告数の男女比については、本週報2000年第46号4ページを参照されたい。

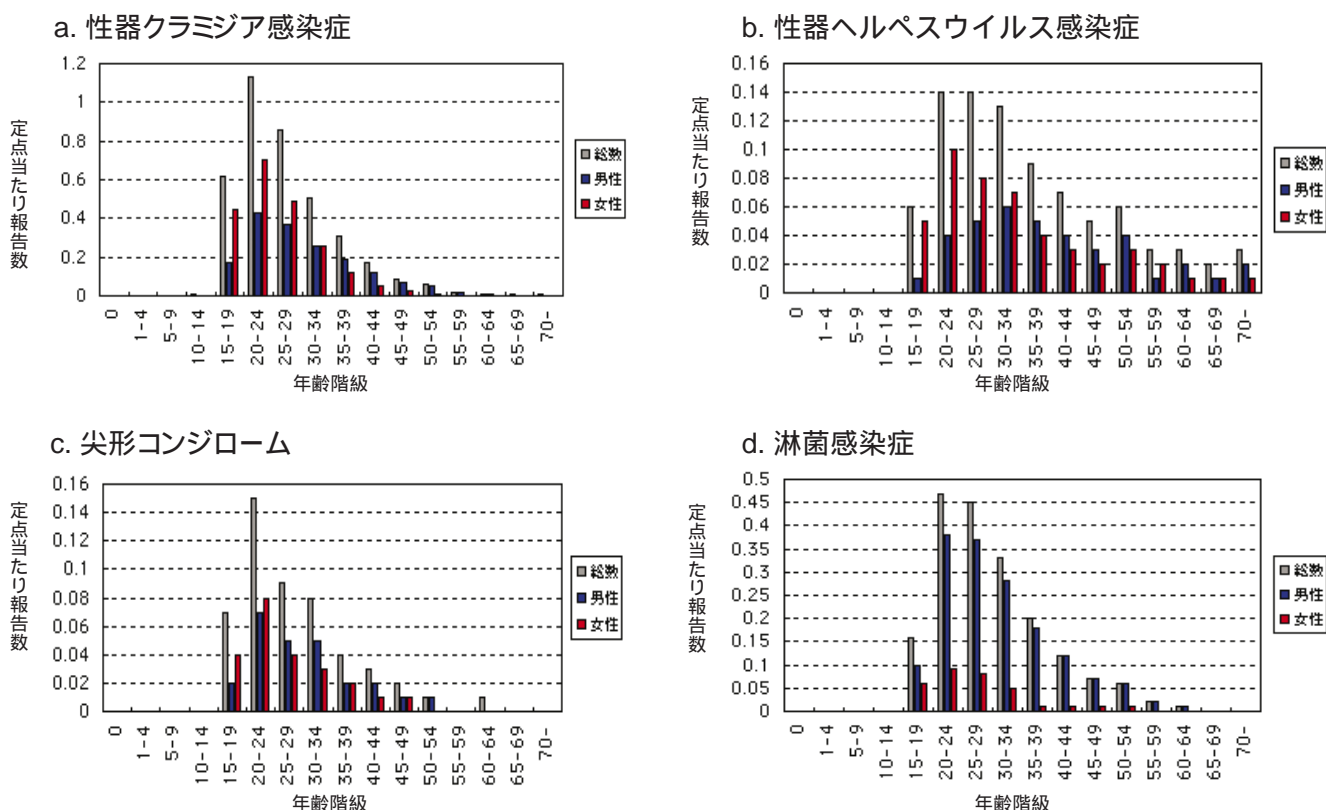
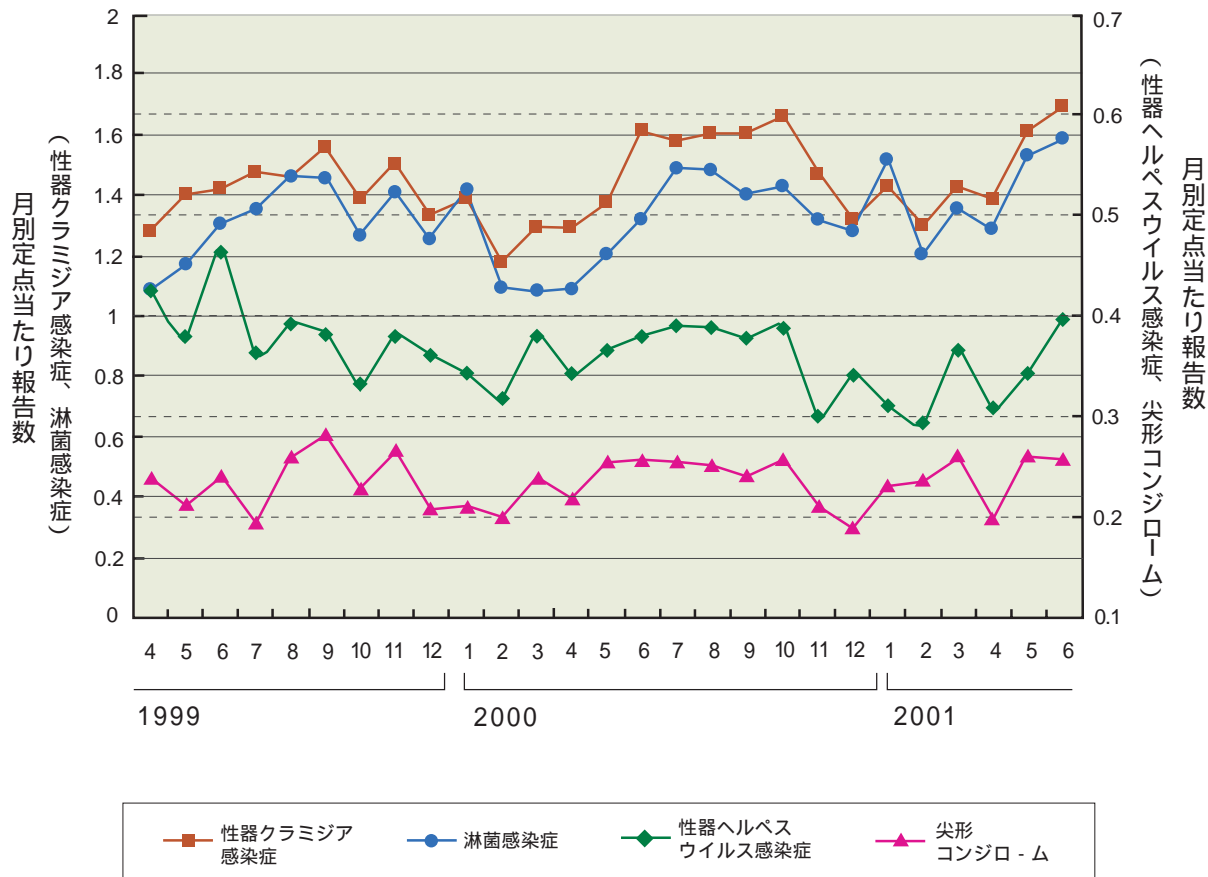


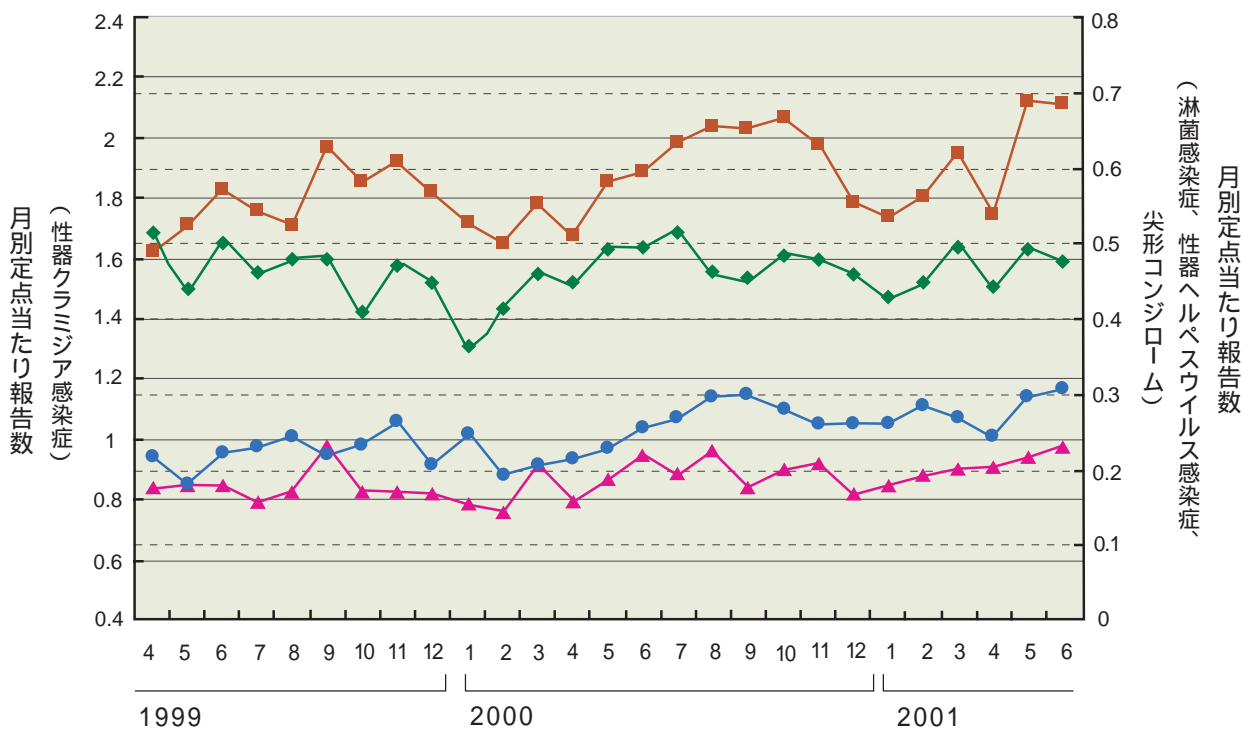
図1. 性感染症の年齢階級・性別グラフ

図2. 性感染症の月別定点当たり報告数(1999年4月以降)

a. 男性



b. 女性



薬剤耐性菌について (7月9日集計分)

【注】 内の+、-は、前月に比し定点当たり報告数のそれぞれ増加、減少を表す。

6月の基幹定点総数: 448 .

6月の定点当たり報告数: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症 3.1(-)

ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)感染症 1.4(+)

薬剤耐性緑膿菌感染症 0.1(+)

年齢階級別: MRSA感染症.....0歳、1～4歳と高齢者に多く、報告数の56%は65歳以上。

PRSP感染症.....1～4歳が最も多く、全体の約4割を占める。

薬剤耐性緑膿菌感染症...高齢者に多く見られ、全体の約6割が65歳以上。

結核サーベイランス月報 (7月18日集計分)

6月の新登録患者数は3,329人、活動性肺結核患者は2,707人(うち喀痰塗抹陽性患者は1,123人)であった。

また、新登録患者数に含まれない(統計的には別掲扱い)マル初*は1,067人、非定型抗酸菌陽性者数は236人であった。

*マル初...結核の感染が強く疑われ、発病予防のための治療を受けている者であって、正確には結核発病者ではない。

コメントについては、結核研究所の結核発生動向調査結果報告 (<http://www.jata.or.jp/tbmr/tbmr.htm>) をご覧下さい。

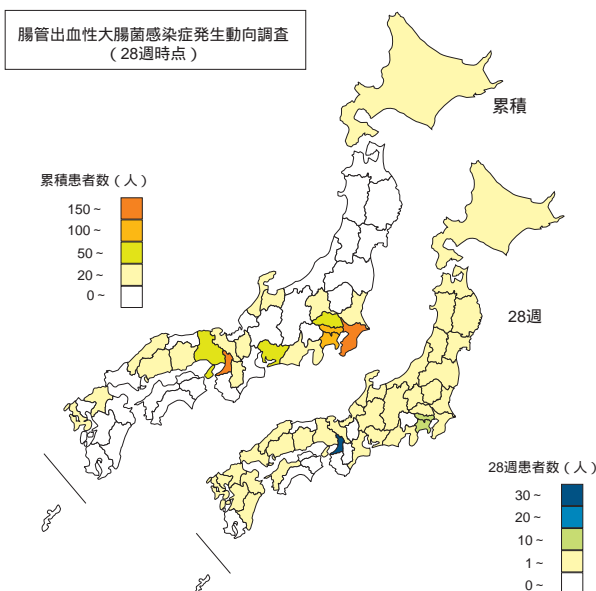


注目すべき感染症

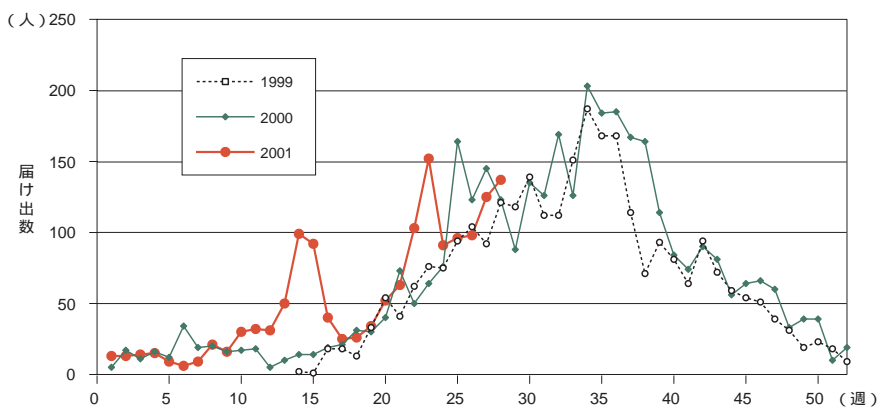
腸管出血性大腸菌感染症流行状況

2001年には複数のO157感染症が広域発生した影響で、昨年に比べ患者報告数が早い時期から多くみられている。第28週の報告数は135で、都道府県別では大阪府、東京都、神奈川県からの報告が多くなされている。原因菌としては、大都市圏を中心とするO157(VT1、VT2産生)以外に、O26(VT1産生) O111(VT1、あるいはVT1、VT2産生)などもみられている。

第28週時点での今年の累積報告数は1,481であり、都道府県別では千葉県、大阪府、神奈川県などからの報告が多くなされている。本年度の累積報告数を5歳刻みの年齢階級別にみると、0～4歳284、5～9歳199、10～14歳149の順に多くなっているが、他の年齢層でも一定の割合で発生が見られる(病原体情報については8ページを参照)。



腸管出血性大腸菌感染症 (無症状保菌者含む) 届け出状況



ヘルパンギーナ流行状況

主にA群コクサッキーウイルス、B群コクサッキーウイルス、稀にはエコーウイルスなどを病因とし、発熱、特徴的な咽頭所見を呈する疾患である。1～4歳に多く、その発生は6～8月に増加し、通常は7月頃にピークを形成する。感染症発生動向調査では、全国約3,000の小児科定点より毎週報告がなされている。

第28週の報告数は19,967で、定点当たり報告数は6.61である。また、第28週時点での今年の累積報告数は71,455で、定点当たり累積報告数は23.80である。累積報告数について1歳刻みの年齢階級別にみると、1歳15,159、2歳13,352、3歳11,766の順に多くなっている。また、定点当たり累積報告数を都道府県別にみると、広島県59.8、徳島県53.4、埼玉県39.2の順に多くなっている(病原体情報については8ページを参照)。



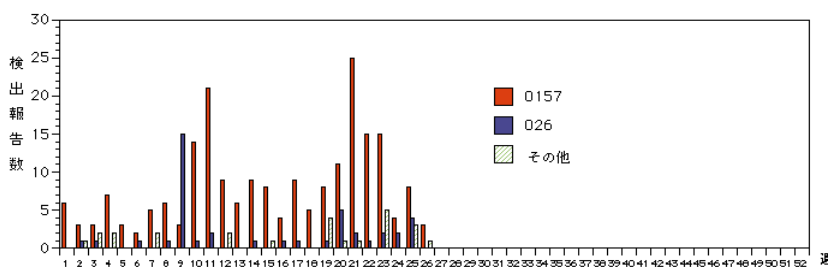
病原体情報

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2001年7月19日現在報告分)

ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26検出報告 2001年

本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が221件、O26が47件である。第21週には、石川県で起きた集団発生事例からのO157検出15件が報告された。最近では、O157が第25週に8件(函館市2、茨城県5、香川県1)、第26週に3件(茨城県2、京都市1)、第27週に3件(秋田県3)、O26が第25週に4件(京都市3、秋田県1)の報告があった。

週別Vero毒素産生性大腸菌検出報告数、2001年 (病原微生物検出情報: 2001年7月19日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



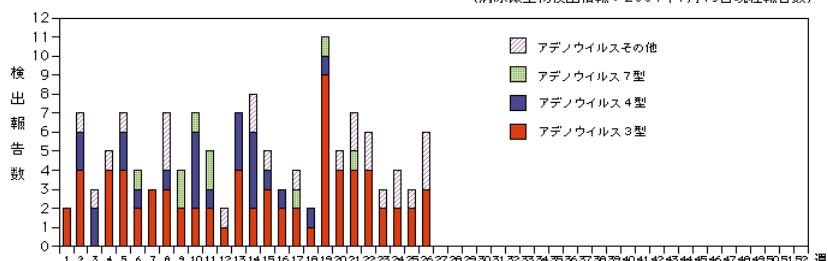
Infectious Agents Surveillance Report

咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス 2001年

本年分離報告されたウイルスは、アデノウイルス3型73件(長野県26、仙台市13、新潟県7、宮崎県5など)、4型24件(兵庫県21、新潟県2、福岡市1)、2型13件(仙台市6、長野県3、新潟県、広島市、福岡県、北九州市各1)、7型9件(新潟県6、北九州市3)、1型5件(広島市3、長野県2)、5型4件(兵庫県3、北九州市1)、19型1件(広島市1)である。

週別咽頭結膜熱患者からのアデノウイルス分離報告数、2001年

(病原微生物検出情報: 2001年7月19日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

ヘルパンギーナ患者から分離されたウイルス 2001年

本年分離報告されたウイルスは、A群コクサッキーウイルス(CA)33件(2型13、4型6、5型4、8型4、10型4、6型2)、B群コクサッキーウイルス(CB)18件(4型9、5型6、1型2、3型1)、エコーウイルス(E)1件(11型1)である。

手足口病患者から分離されたウイルス 2001年

本年分離報告されたウイルスは、コクサッキーウイルスA16型(CA16)が26件(長野県7、秋田県4、長崎県、熊本県、宮崎県各3、愛媛県2など)、CA6が4件(奈良県3、滋賀県1)、CA2が1件(神奈川県)、エコーウイルス2型(E2)5件(大阪府5)、E18が2件(宮崎県2)、エンテロウイルス71型(EV71)5件(鳥根県3、東京都、長野県各1)である。

無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス 2001年

本年分離報告されたウイルスは、ムンプスウイルス34件(東京都、新潟県各7、愛媛県4、広島県3など)、エコーウイルス(E)18件(11型12、30型2、7型1、14型1、18型1、25型1)、B群コクサッキーウイルス(CB)7件(5型3、1型2、3型1、4型1)である。



エコーウイルス11型による無菌性髄膜炎の流行 - 北九州市

無菌性髄膜炎の検体は毎月数件の搬入があるが、2001年5月下旬より増加し始め、6月は40件で検体数の約60%を占め、7月現在も続いている。検体は北九州市および近郊から採取され、患者の年齢も生後1カ月～12歳までほぼ均一に分布し、男女比は6:4である。

5月の中旬にヘルパンギーナと突発性発疹患者よりエコーウイルス11型(E11)が分離され、その後すぐに髄膜炎からも1件分離された。6月初旬以降採取の検体からは、E11が髄膜炎より8件、発疹症から1件分離され、髄膜炎からの検体でCPEが出て、E11と思われる同定中のものも数件ある。

ウイルスは、HEp-2細胞で1検体を除き2代継代までに分離され、そのうち5例はRD18細胞でも分離できた。同定は、国立感染症研究所から分与された抗血清EP-95、およびデンカ生研の抗血清を用いて、中和反応により実施した。

このような単一ウイルスによる流行は、1998年4月～7月にかけてのE30による髄膜炎の流行以来である。

北九州市環境科学研究所 山本康之 木村尚志 内尾俊博

(IASR2001年8月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

平成13年度(2001/2002年シーズン)インフルエンザHAワクチン製造株の選定について

厚生労働省健康局長の依頼に基づいて、2000年10月から2001年4月にかけて、国立感染症研究所において平成13年度(2001/2002年インフルエンザシーズン)に使用されるインフルエンザHAワクチンのワクチン製造株選定会議が4回開催された。その際に、2001年2月に開催されたWHOワクチン株選定会議の討議内容と推奨株の性状、国内外のインフルエンザ流行状況、分離ウイルスの抗原解析および遺伝子解析の成績、免疫誘導能、発育鶏卵での増殖性、抗原性の安定性等のワクチン製造効率が検討された。これらの成績を総合的に検討して、次シーズンの流行予測を行い、それに基づいたワクチン製造株を選定し、その結果を厚生労働省に報告した。

平成13年度(2001/2002年シーズン)インフルエンザHAワクチン製造株

A/ニューカレドニア/20/99「H1N1」ソ連型」 A/パナマ/2007/99「H3N2」A香港型」 B/ヨハネスバーグ/5/99「B型」
--

2000/2001年シーズンのインフルエンザは、世界的にも例年に比べて約1/10程度の小規模な流行であった。欧米諸国ではA/H3N2「香港型」の流行がほとんど見られず、A/H1N1「ソ連型」が主流を占め、これにB型が約1/3を占める流行であった。一方、我が国における流行も、流行の開始が1月下旬と例年より遅く、流行規模も例年に比べて1/5～1/3程度と小さかった。分離ウイルスに

ついては、A/H3N2「香港型」の比率が欧米に比べて多いものの、全体の分離株数は例年の約1/3と少なかった。分離ウイルスの内訳は、A/H1N1型:A/H3N2型:B型=2:1:2の比率であった。

1) A/ニューカレドニア/20/99(H1N1)ソ連型」

世界的には、A/H1N1型は1999/2000年シーズンに引き続いて2000/2001年シーズンの主流となっていた。国内外の流行ウイルスに対する抗原解析の結果、2000/2001年シーズンのワクチン推奨株であるA/ニューカレドニア/20/99(H1N1)類似のウイルスが主流を占め、抗原変異株の出現は少なかったことが報告された。このことから、2001/2002年シーズンのA/H1N1「ソ連型」の流行の主流は、A/ニューカレドニア/20/99(H1N1)類似のウイルスであることが予想された。従って、WHOでは2001/2002年北半球シーズンのワクチン株として、昨シーズンに引き続きA/ニューカレドニア/20/99(H1N1)様ウイルスを推奨した。

わが国では、A/H1N1「ソ連型」ウイルスは1995/96年シーズン以来比較的大きな流行を繰り返してきたが、1999/2000年に引き続き2000/2001年シーズンもインフルエンザ流行の主流を形成した。国内で分離されたウイルスの95%以上が同シーズンのワクチン株A/ニューカレドニア/20/99(H1N1)株と抗原性の類似したウイルスであり、大きく抗原性がずれた変異株はほとんど報告されていない。また、遺伝子塩基配列上からも、従来の遺伝子型グループからはずれたウイルスは見つかっていない。従って、我が国においても、2001/2002年シーズンにA/H1N1「ソ連型」が流行した場合には、引き続きA/ニューカレドニア/20/99(H1N1)株類似のウイルスが流行の主流となることが予想される。

一方、感染症流行予測調査事業による一般健康人における抗体保有調査の結果、全年齢層においてA/ニューカレドニア/20/99(H1N1)に対する抗体保有率及び抗体価が低いことが明らかとなり、この株に対する免疫増強の必要性が示された。また、A/ニューカレドニア/20/99(H1N1)株を含む2000/2001年シーズン向けワクチンの接種を受けた成人～高齢者における抗体応答を調べた結果、ワクチン株のみならず、HI試験で4倍程度ずれた抗原変異株に対しても高い交叉反応性を持つことが示された。さらに、A/ニューカレドニア/20/99(H1N1)株は、昨シーズンの実績から、発育鶏卵における増殖性、免疫原性、継代に伴う抗原的安定性など、ワクチン製造上にも問題がないことが示された。

以上から、平成13年度(2001/2002年シーズン)のA/H1N1「ソ連型」のワクチン製造株として、昨年と同様のA/ニューカレドニア/20/99(H1N1)株が選定された。

2) A/パナマ/2007/99(H3N2)香港型」

世界的には、A/H3N2型の流行は非常に小さく、ウイルスがほとんど分離されなかった地域もあった。各地における分離株についての解析結果では、昨シーズンのWHOワクチン推奨株であるA/モスクワ/10/99(H3H2)類似株がほとんどを占めており、変異株の出現頻度は低かった。従って、A/H3N2「香港型」が近く終焉を迎えるとの推測もある一方で、2001/2002年シーズンにおけるA/H3N2「香港型」流行の主流は、A/モスクワ/10/99(H3H2)類似のウイルスであることが予想される。そこで、WHOでは2001/2002年北半球インフルエンザシーズンに対するワクチン株として、昨シーズンに引き続きA/モスクワ/10/99(H3H2)様ウイルスを推奨した。

ワクチン製造には発育鶏卵におけるウイルスの増殖性が大きな条件となるが、A/モスクワ/10/99(H3H2)株は発育鶏卵での増殖性が低く、ワクチン製造株には不適である。そこで、各国で検討した結果、この株と抗原性が類似しており、かつ増殖性が高いA/パナマ/2007/99(H3N2)株が、我が国を含む多くの国において、昨シーズンのワクチン製造株として採用された。

我が国における2000/2001年シーズンのA/H3N2型ウイルスの流行は、例年よりは流行規模は小さく流行の主流にはならなかったが、欧米に比べて比較的大きな流行として認められた。分離ウイルスの大部分は、昨シーズンのWHOワクチン推奨株であったA/モスクワ/10/99(H3N2)様ウイルスないし我が国のワクチン株A/パナマ/2007/99(H3N2)の類似株であり、大きな抗原変異株は検出されなかった。また遺伝子解析からも特別な変異ウイルスは見つかっていない。

感染症流行予測調査事業による抗体保有調査の結果、15歳以上～高齢者においてA/パナマ/2007/99(H3N2)に対する抗体保有率が比較的低いことが示された。また、A/パナマ/2007/99(H3N2)株を含む2000/2001年シーズン向けワクチンの接種を受けた成人～高齢者における抗体応答を調べた結果、ワクチン株および1997年以降の主流となっているA/シドニー/5/97(H3N2)類似株の多くに対しても高い交叉反応性を持つことが示された。A/パナマ/2007/99(H3N2)株は昨シーズンのワクチン製造株としての実績があり、発育鶏卵における増殖性、免疫原性、継代に伴う抗原的安定性など、ワクチン製造上にも大きな問題がないことが示された。

以上から、平成13年度(2001/2002年シーズン)のA/H3N2「香港型」のワクチン製造株として、昨年と同様のA/パナマ/2007/99(H3N2)株が選定された。

3) B/ヨハネスバーグ/5/99

1990年代に入って日本を含めた東アジア地域では、B型インフルエンザについては、B/山形/16/88およびB/ビクトリア/2/87に代表される抗原性が大きく異なる2系統のウイルスが併存して流行している。諸外国では、1999/2000年シーズンにはB/山形系統に属するB/北京/164/93株に類似したウイルスが広く分離された。そこで、WHOでは2000/2001年シーズン向けのワクチン株として、1999/2000年シーズンに引き続きB/北京/164/93様ウイルスを推奨した。実際には、免疫原性やワクチン製造効率上の理由から、多くの国ではB/北京/164/93株と抗原性が同じB/山梨/166/98株をワクチン製造株に採用した。一方、我が国では1999/2000年シーズンにはB型インフルエンザの流行は無く、15株の分離ウイルスは全てB/山形系統のウイルスであったが、分離ウイルスの解析から次シーズンの流行予測を行うことは困難であった。そこで、我が国でもWHOの推奨および諸外国の判断に基づいて、2000/2001年シーズンにはB/山梨/166/98株をワクチン製造株とした。

2000/2001年シーズンには、世界的にB型インフルエンザの流行は相対的に大きく、流行ウイルスのほとんどがB/山形系統のウイルスであった。しかし、これらのウイルスは、ワクチン推奨株であるB/北京/164/93類似株または実際のワクチン株B/山梨/166/98とは抗原的に8倍以上変異し、遺伝子系統的にも分岐したB/四川/379/99株類似のウイルスが流行の主流を占めていた。従って、2001/2002年シーズンにも、B/四川/379/99株類似のウイルスが流行の主流となることが予想された。さらに、B/山梨/166/98株を含む2000/2001年のワクチン接種を受けた全ての年齢層のヒトにおける免疫応答は、B/四川/379/99株およびその類似株には低い交叉反応性しか示さなかった。逆に、B/四川/379/99株を含むワクチン接種によって誘導された抗体は、B/四川/379/99類似の抗原変異株およびB/山梨/166/98類似株に対しても同程度の交叉反応を示した。従って、WHOでは2001/2002年北半球インフルエンザシーズンのB型ワクチン株として、昨シーズンまでのB/北京/164/93株を変更して、B/四川/379/99様株を推奨株とした。

我が国においても、B型インフルエンザはA/H1N1型と共に流行の主流を占め、分離ウイルスの大部分はB/四川/379/99株類似のウイルスであった。一方、少数ながら、B/四川/379/99株から既に8倍程度ずれた抗原変異株や、B/ビクトリア系統に属するウイルスの分離も報告されており、今後B型インフルエンザの流行予測とワクチン株選定にはより一層幅広い検討が必要となろう。平成13年

4月時点において総合的に検討した結果、2001/2002年シーズンのB型インフルエンザはB/四川/379/99株に類似したウイルスが主流を占めることが予想され、同株またはその類似株をワクチン製造株とすることが適当であると判断された。

しかし、B/四川/379/99株は発育鶏卵での増殖が悪いためワクチン製造株としては不適当であった。そこで、諸外国と協力して、B/四川/379/99株と抗原性が類似している多数のウイルス株について、増殖性、抗原的安定性等のワクチン製造効率を検討した。その中から最終候補として残った3株について更に詳細に比較検討した結果、何れも大きな違いは無いが、B/ヨハネスバーグ/5/99株が発育鶏卵において比較的良好な増殖性を示し、また免疫原性、抗原的安定性においても3株の中では最もワクチン製造に適していると判断された。

以上から、平成13年度(2001/2002年シーズン)のB型インフルエンザワクチン製造株として、昨年のB/山梨/166/98株に代えて、B/ヨハネスバーグ/5/99株が選定された。

国立感染症研究所ウイルス製剤部長 田代 真人



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

スペインでレジオネラ症の流行 - 更新

Eurosurveillance weekly 2001年7月19日

6月の終わりから7月の始めに、人口36万人のスペインのムルシア市で大規模で爆発的なレジオネラ症の流行が起こった。7月18日までに745例が肺炎と診断され、そのうちの315例が尿中抗原の検出によってレジオネラ症と確定診断された。確定診断例の発症日は6月26日から7月16日で、ピークは7月5～6日であった。7月6日から発生が激減した。1人の死亡が報告され、その患者から *Legionella pneumophila* 血清型1が分離された。12例が集中治療を受けた。患者の76%は男性で、およそ2/3は50歳以上であった。

全患者の70%近くが市中央部の北側、および北西側の狭い範囲の住民であった。患者からの予備的な聞き取り調査では、残りの患者も6月最後の週から7月初めに、市中央部を訪れていたことが判明した。市中央部にある冷却塔が、流行の感染源として疑われている。その地域のいくつかの冷却塔の検体からPCRで陽性が得られたが、これまで *Legionella pneumophila* 血清型1は分離されていない。これらの冷却塔やこの地域の他の感染源となりうる施設に対して、消毒などの対策が行われている。

ムルシア市は、7月22～27日に開催される今年のヨーロッパユースオリンピック記念大会を主催する。ムルシアを訪れる数千人のスポーツ選手や訪問者の健康が懸念されるため、ヨーロッパオリンピック委員会(EOC)は、流行の影響を直ちに評価し、地域公衆衛生チームと制御対策について話し合うために、レジオネラ症専門家の国際グループを組織し、7月11～15日に派遣した。専門家グループは5人の疫学者と微生物学者で構成されている。全員が旅行に関連するレジオネラ症のヨーロッパサーベイランス計画の代表者で、レジオネラ感染症のヨーロッパワーキンググループのメンバーである。専門家グループは、地域の保健当局が迅速な調査を行い、新たな患者が発生しないように適切な抑制対策を行ったと結論づけた。流行はすでに終わったと思われる。これらの報告をもとに専門家グループは、EOCと国際オリンピック委員会(IOC)に競技は予定どおり行うように勧めた。IOCはその勧告を受け入れ、競技は計画どおりに行う予定である。

コメント

今回のレジオネラ症の流行は、1976年にこの病気が初めて認識されて以来、最大のものである。注目すべきことに、この流行に関して死者が一人だけであったのは、すみやかな診断と適切な治療によるものであったと考えられる。別の大規模な集団感染である2000年のメルボルンの水族館での流行でも、早期からレジオネラ症と認識され、致死率が2%未満であった。さらに、オーストラリアとスペインでは、多くの肺炎患者は、レジオネラ症に感受性を有する抗生剤で経験的に治療される。これに反して、1999年のドイツのフラワーショーでの流行では、患者の大部分が発症してからレジオネラ症流行と認識されたため、致死率は11%にも上った。オランダでの肺炎の経験的治療には、マクロライド系抗生剤およびβ-ラクタム系抗生剤が用いられる。ムルシアでの流行で死者が少なかったのは、レジオネラ菌株の病毒性が弱かったか、患者が以前にこの菌株に曝露されていたのが関係していた可能性がある。



感染症の話

麻疹

麻疹は、多くの途上国では現在の小児の罹患と死亡を減らすため、すでに罹患数を減少させてきた国々では患者数をゼロあるいはゼロに近づけるため、その対策が強力に進められている。WHOでは麻疹をポリオに次ぐ根絶の目標にすべきかどうかということについて、議論が重ねられている。

世界の多くの国が麻疹対策に積極的に取り組んでいる中、年間10万人規模の患者数の発生が推計される我が国の状況は、麻疹に関しては後進国であると言わざるを得ない。麻疹潜伏期間中に日本を離れた日本人海外旅行者が現地で発症し、周辺に大きな迷惑を及ぼした事例も毎年のように報告され、日本は麻疹の輸出国であるとの不名誉な指摘も受けている。

疫学

基本的に飛沫を介する人から人への感染で、さらに、飛沫核感染(空気感染)も重要な感染経路である。本邦では通常春から夏にかけて流行する。感染性は非常に高く、感受性のある人(免疫抗体を持たない人)が暴露を受けると90%以上が感染する。過去1984年に大きな全国流行があり、1991年にも流行があったがやや小さく、その後大きな全国流行はなかった。しかし、毎年地域的な流行が反復している。感染症発生動向調査では、国内約3,000の小児科定点から年間11,000～22,000例の報告があり、実際にはこの10倍以上の患者が発生していると考えられる。この中で2歳以下の罹患が60%以上を占めており、罹患者の95%以上が予防接種未接種である。

2001年は当初より高知県、奈良県、九州地方などで流行がみられ、3月に入って北海道でも患者数が急増し、過去5年間と比較して定点当たり報告数がかかなり多い状態が続いている。2001年第1週から第24週までの累積患者数は24,615(昨年同期12,885) 性別内訳は男13,350、女11,265とやや男性に多い。累積報告数の年齢階級別では、1歳未満3,389(うち6カ月未満319)、1歳5,512、2歳2,502、3歳1,799、4歳1,542、5～9歳5,522、10～19歳3,873、20歳以上476となっている。

また、平成11年度から、全国約500の基幹病院定点より成人麻疹(18歳以上)の患者発生が報告されているが、2001年は過去3年間で最も多い報告数となっている。これらの症例の多くは、入院を要するような比較的重症例であると考えられる。2001年第1週から第24週までの成人麻疹累積報告数は549(昨年同期215)であり、年齢階級別で多いのは、20～24歳(200)、20歳未満(142)、25～29歳(129)などである。発症予防には麻疹ワクチンが有効だが、国内での麻疹ワクチン接種率は80%程度にとどまっているという報告もある(予防接種の効果的実施と副反応に関する総合的研究・分担研究者磯村思无)。

病原体

原因ウイルスである麻疹ウイルスはParamyxovirus科Morbillivirus属に属し、直径100～250nmのエンベロープを有する一本鎖RNAウイルスである。リンパ節、脾臓、胸腺など全身のリンパ組織を中心に増殖する。

エンベロープ蛋白のうち、F(fusion)蛋白とH(hemagglutinin)蛋白がその病原性に大きく関わっているが、F蛋白はウイルスと宿主細胞の膜融合を引き起こし、宿主細胞へのウイルスの侵入を可能にすることが知られている。1980年代の流行から始まったH遺伝子の変異は、1990年代になってF遺伝子に及んでいる。H蛋白、F蛋白は感染防御抗体を作らせる蛋白なので、これらの部

位での変異を注視する必要がある。幸い現在までのところ、現行ワクチンによる感染防御効果には変化は見られない。

ウイルスは熱、紫外線、酸(pH<5)、アルカリ(pH>10)、エーテル、クロロホルムによって速やかに不活化される。空気中や物体表面では生存時間は短い(2時間以下)。

臨床症状

<前駆期(カタル期)>

感染後に潜伏期10～12日を経て発症する。38 前後の発熱が2～4日間続き、倦怠感があり、不機嫌となり、上気道炎症状(咳嗽、鼻漏、くしゃみ)と結膜炎症状(結膜充血、眼脂、羞明)が現れ、次第に増強する。乳幼児では消化器症状として下痢、腹痛を伴うことが多い。発疹出現の1～2日前頃に頬粘膜の臼歯対面に、やや隆起し紅暈に囲まれた約1mm径の白色小斑点(コプリック斑(写真1))が出現する。コプリック斑は診断的価値があるが、発疹出現後2日目の終わりまでに急速に消失する。また、口腔粘膜は発赤し、口蓋部には粘膜疹がみられ、しばしば溢血斑を伴うこともある。



写真1. 口腔内にみられるコプリック斑

<発疹期>

カタル期での発熱が1 程度下降した後、半日くらいのうちに再び高熱(多くは39.5 以上)が出るとともに(2峰性発熱)特有の発疹(写真2)が耳後部、頸部、前額部より出現し、翌日には顔面、体幹部、上腕におよび、2日後には四肢末端にまでおよぶ。発疹が全身に広がるまで、発熱(39.5 以上)が3～4日間続く。発疹ははじめ鮮紅色扁平であるが、まもなく皮膚面より隆起し、融合して不整形斑状(斑丘疹)となる。指圧によって退色し、一部には健常皮膚を残す。発疹は次いで暗赤色となり、出現順序に従って退色する。発疹期にはカタル症状は一層強くなり、特有の麻疹様顔貌を呈する。



写真2. 顔面にみられる発疹

<回復期>

発疹出現後3～4日間続いた発熱も回復期に入ると解熱し、全身状態、活力が改善してくる。発疹は退色し、色素沈着がしばらく残り、僅かの糠様落屑がある。カタル症状も次第に軽快する。合併症のないかぎり7～10日後には回復する。患者の気道からのウイルス分離は、前駆期(カタル期)の発熱時に始まり、第5～6発疹日以後(発疹の色素沈着以後)は検出されない。この間に感染力をもつことになるが、カタル期が最も強い。

<合併症>

(1)肺炎:麻疹の二大死因は肺炎と脳炎であり、注意を要する。

[ウイルス性肺炎]病初期に認められ、胸部X線上、両肺野の過膨張、瀰漫性の浸潤影が認められる。また、片側性の大葉性肺炎の像を呈する場合もある。

[細菌性肺炎] 発疹期を過ぎても解熱しない場合に考慮すべきである。抗生剤により治療する。原因菌としては、一般的な呼吸器感染症起炎菌である肺炎球菌、インフルエンザ菌、化膿レンサ球菌、黄色ブドウ球菌などが多い。

[巨細胞性肺炎] 成人の一部、あるいは特に細胞性免疫不全状態時にみられる肺炎である。肺で麻疹ウイルスが持続感染した結果生じるもので、予後不良であり、死亡例も多い。発疹は出現しないことが多い。本症では麻疹抗体は産生されず、長期間にわたってウイルスが排泄される。発症は急性または亜急性である。胸部レントゲン像では、肺門部から末梢へ広がる線状陰影がみられる。

(2) 中耳炎: 麻疹患者の約5～15%にみられる最も多い合併症の一つである。細菌の二次感染により生じる。乳幼児では症状を訴えないため、中耳からの膿性耳漏で発見されることがあり、注意が必要である。乳様突起炎を合併することがある。

(3) ウループ症候群: 喉頭炎および喉頭気管支炎は合併症として多い。麻疹ウイルスによる炎症と細菌の二次感染による。吸気性呼吸困難が強い場合には、気管内挿管による呼吸管理を要する。

(4) 心筋炎: 心筋炎、心外膜炎をときに合併することがある。麻疹の経過中半数以上に、一過性の非特異的な心電図異常が見られるとされるが、重大な結果になることは稀である。

(5) 中枢神経系合併症: 1,000例に0.5～1例の割合で脳炎を合併する。発疹出現後2～6日頃に発症することが多い。髄液所見としては、単核球優位の中等度細胞増多を認め、蛋白レベルの中等度上昇、糖レベルは正常かやや増加する。麻疹の重症度と脳炎発症には相関はない。患者の約60%は完全に回復するが、20～40%に中枢神経系の後遺症(精神発達遅滞、痙攣、行動異常、神経聾、片麻痺、対麻痺)を残し、死亡率は約15%である。

(6) 亜急性硬化性全脳炎(subacute sclerosing panencephalitis: SSPE): 麻疹ウイルスに感染後、特に学童期に発症することのある中枢神経疾患である。知能障害、運動障害が徐々に進行し、ミオクローヌスなどの錐体・錐体外路症状を示す。発症から平均6～9カ月で死の転帰をとる、進行性の予後不良疾患である。発生頻度は、麻疹罹患者10万例に1人、麻疹ワクチン接種者100万人に1人である。

病原診断

ウイルスを分離することは本疾患の確定診断につながるが、通常は臨床診断が容易なため、あまり行われない。しかし、近年の流行ウイルス株を調べたり、ウイルスのH抗原の変異などを検索する分子疫学的な調査には重要である。通常、咽頭拭い液、血液などから分離されるが、カタル期から発疹出現後3日以内が分離率が高い。B95a細胞を用いた場合、咽頭拭い液および血液から、早ければ24時間以内で分離される。

また急性期の麻疹IgM抗体の検出、急性期と回復期のペア血清での麻疹IgG抗体の有意上昇をもって診断可能である。抗体測定方法には、赤血球凝集抑制法(hemagglutination inhibition: HI法)、中和法、ゼラチン粒子凝集法(particle agglutination: PA法)、ELISA法などが用いられている。

治療・予防

特異的治療法はなく、対症療法が中心となるが、中耳炎、肺炎など細菌性の合併症を起こした場合には、抗生剤の投与が必要となる。それ故に、ワクチンによる予防が最も重要である。

母体由来の麻疹特異IgG抗体があると、接種した麻疹ワクチンの増殖が十分でないため、母体由来の抗体がほぼ消失したと考えられる生後1歳以降の児に接種を行う国が多い。我が国における現行の予防接種法では、生後12カ月から90カ月までを接種年齢としており、標準的な実施時期を満1～2歳の間として1回接種としている。麻疹ワクチン接種は、疾患に罹患した場合の重症度、感染力の強さから考え、接種年齢に達した後なるべく速やかに接種することが望ましい。例えば、誕生日との関係でポリオの集団接種の時期と重複した場合は、麻疹ワクチンを優先するのが望ましいと考えられる。生後6カ月以降は母親由来の免疫が減弱するため、麻疹流行期や保育園などで集団生活をしている場合は、1歳以前にワクチンを接種することが勧められる。ただし、この場合の接種は定期接種ではなく、任意接種として有料で実施することになる。いずれにしても、1歳前に接種を受けた場合は、1歳以降に再接種(この場合は定期接種として実施)をする必要がある。その理由は、乳児期後期まで母親からの移行抗体が持続している場合があり、その場合はワクチンウイルスが母親の免疫で中和されてしまうため、十分な抗体が産生されない可能性があるためである。また、グロブリンを投与された後は、6カ月未満の乳児と同様の理由で効果が得られないため、3カ月間は接種を行わない。川崎病などの治療で大量療法を受けた場合には、6カ月間あける必要がある。

ワクチンによる免疫獲得率は95%以上と報告されており、有効性は明らかである。接種後の反応としては発熱が約20～30%、発疹は約10%に認められる。いずれも軽症であり、ほとんどは自然に消失する。熱性けいれん既往者に対しては、発熱性疾患罹患時と同様の方法で抗けいれん剤(例:ジアゼパム坐剤)による予防が可能である。ワクチンアレルギーの原因となったゼラチンに関しては、ゼラチン・フリーや低アレルゲン性ゼラチンを採用するなど改善された。ごく稀に(100～150万接種に1例程度)脳炎を伴うことが報告されているが、麻疹に罹患したときの脳炎の発症率に比べると遙かに低い。

感染症法における取り扱い

麻疹は4類感染症定点報告疾患であり、その報告は全国約3,000カ所の小児科定点より毎週なされる。報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の3つの基準をすべて満たすもの。

1. 全身の発疹(回復期には色素沈着を伴う)
2. 38 以上の発熱
3. 咳嗽、鼻汁、結膜充血などのカタル症状

なお、コプリック斑の出現は診断のための有力な所見となる

上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清診断によって当該疾患と診断されたもの。

学校保健法における取り扱い

麻疹は第二種の伝染病に属し、登校基準としては、「発疹に伴う発熱が解熱した後3日を経過するまで出席停止とする」と述べられている。

(国立感染症研究所感染症情報センター)



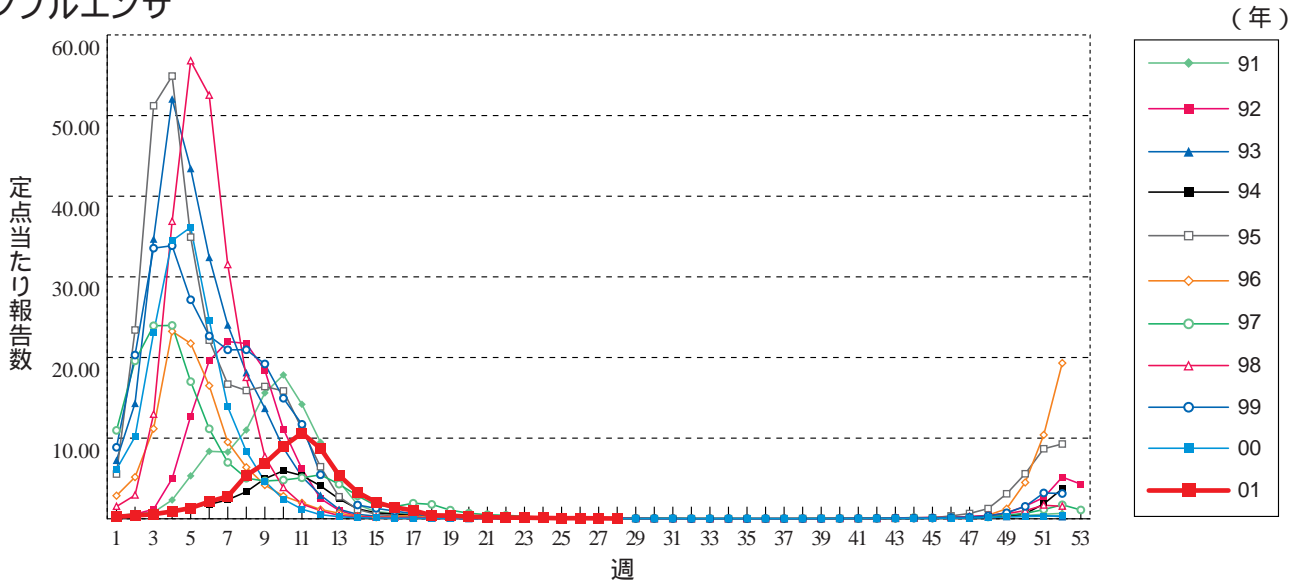
読者のコーナー

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

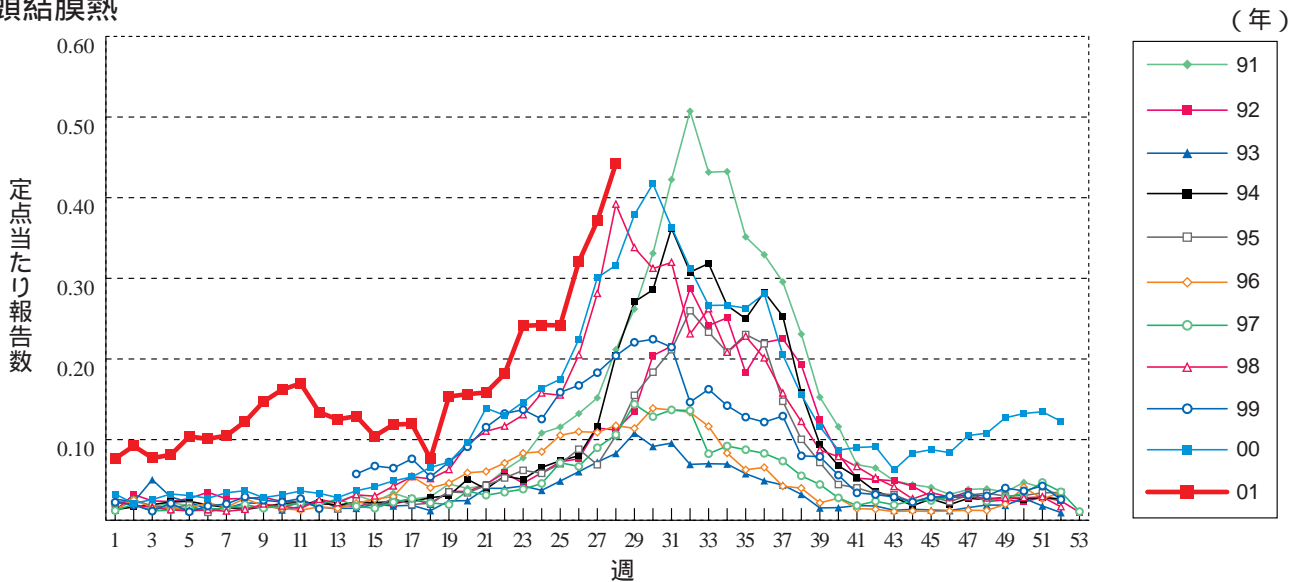
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(28週)

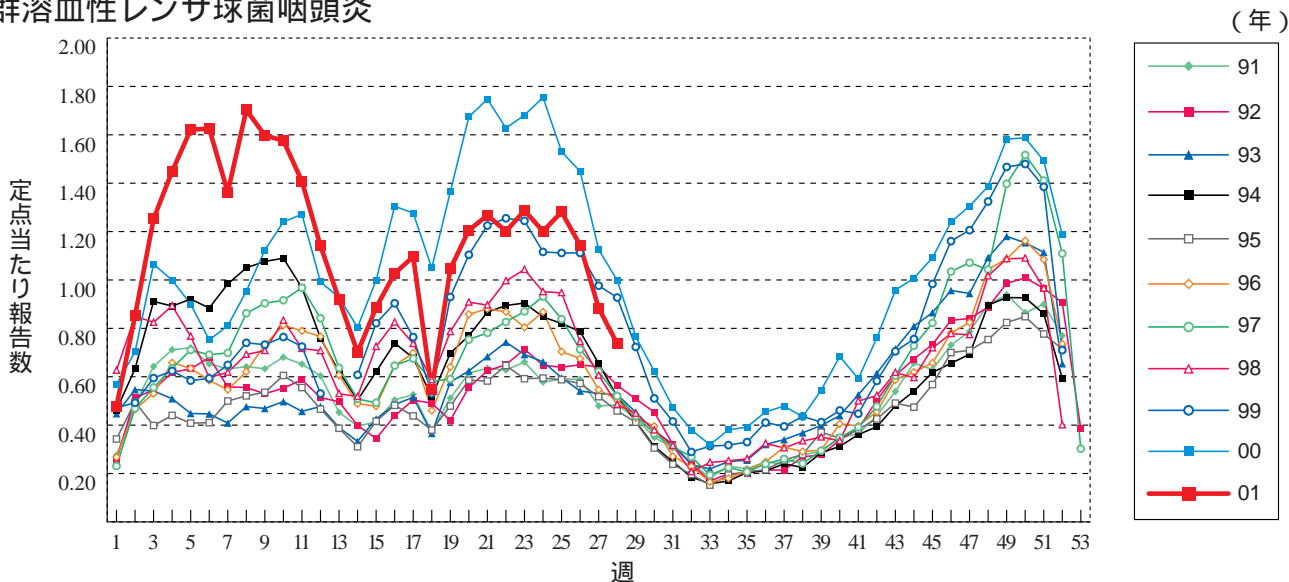
インフルエンザ



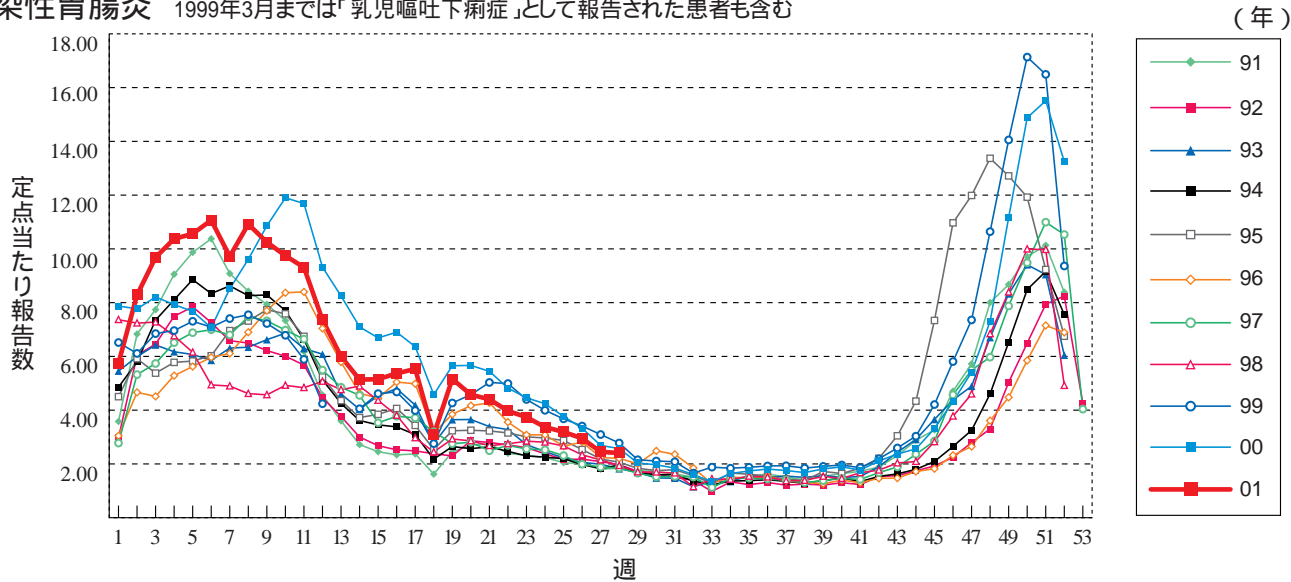
咽頭結膜熱



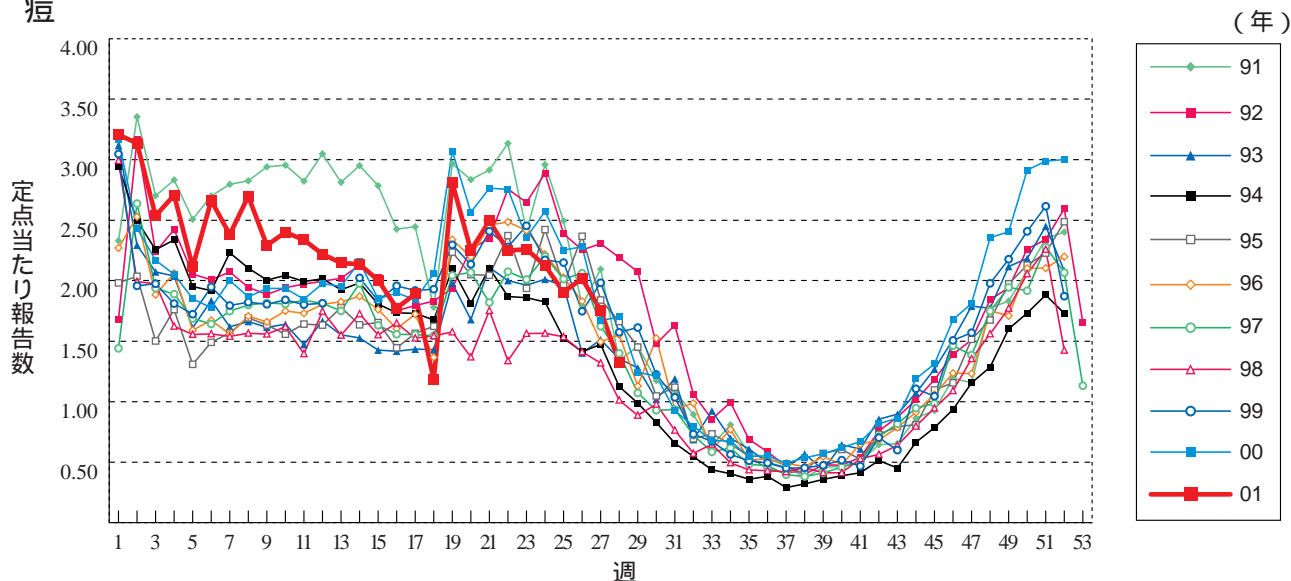
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



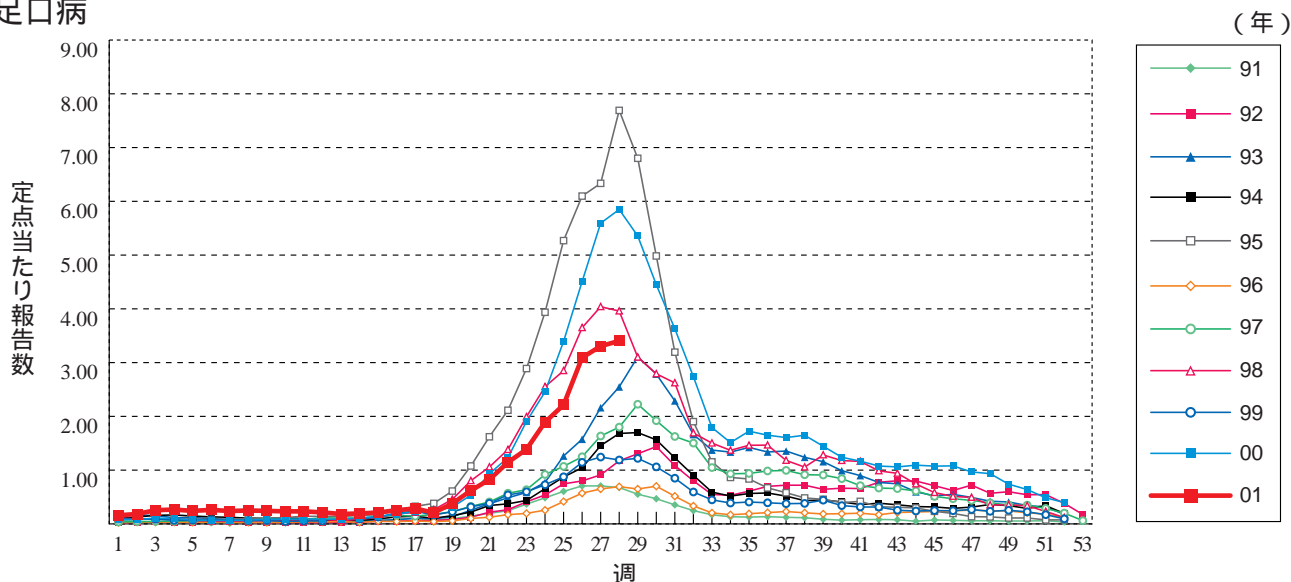
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



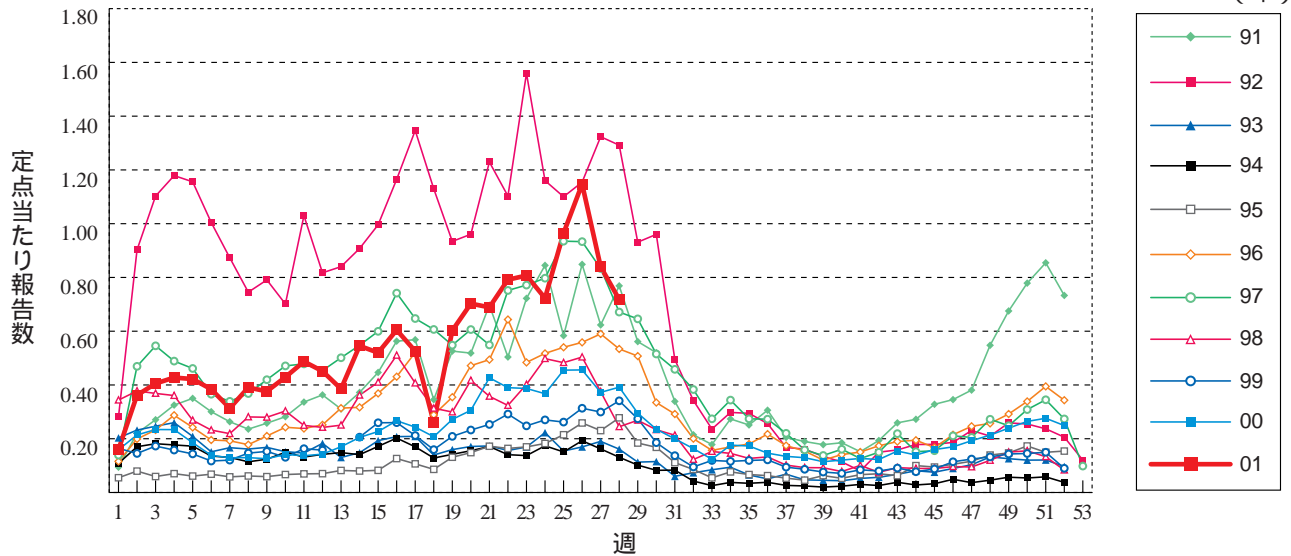
水痘



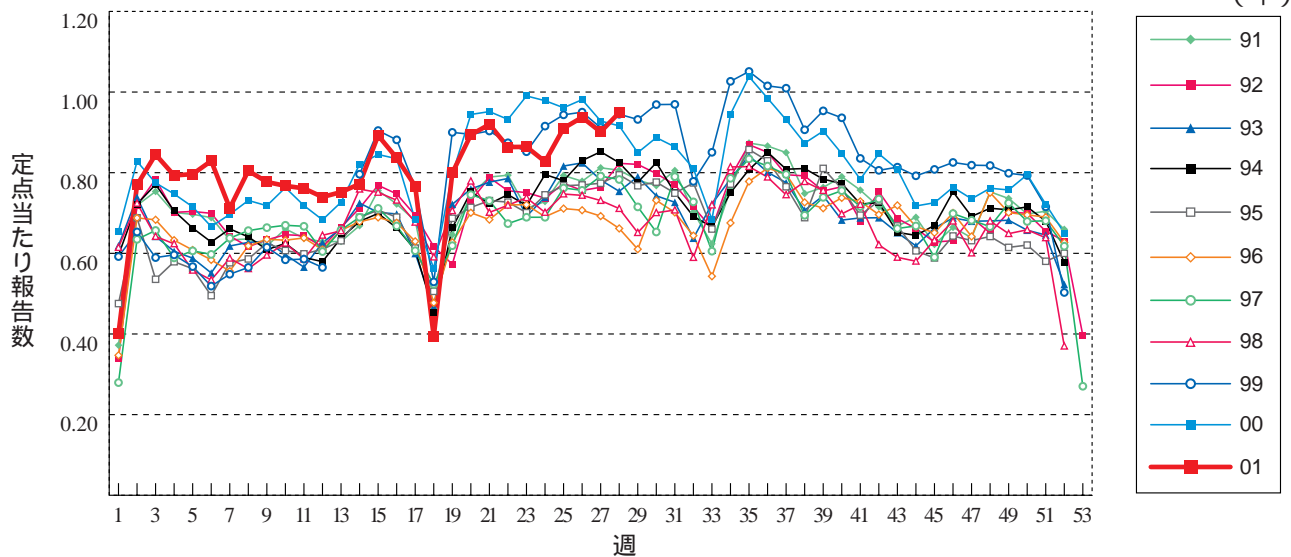
手足口病



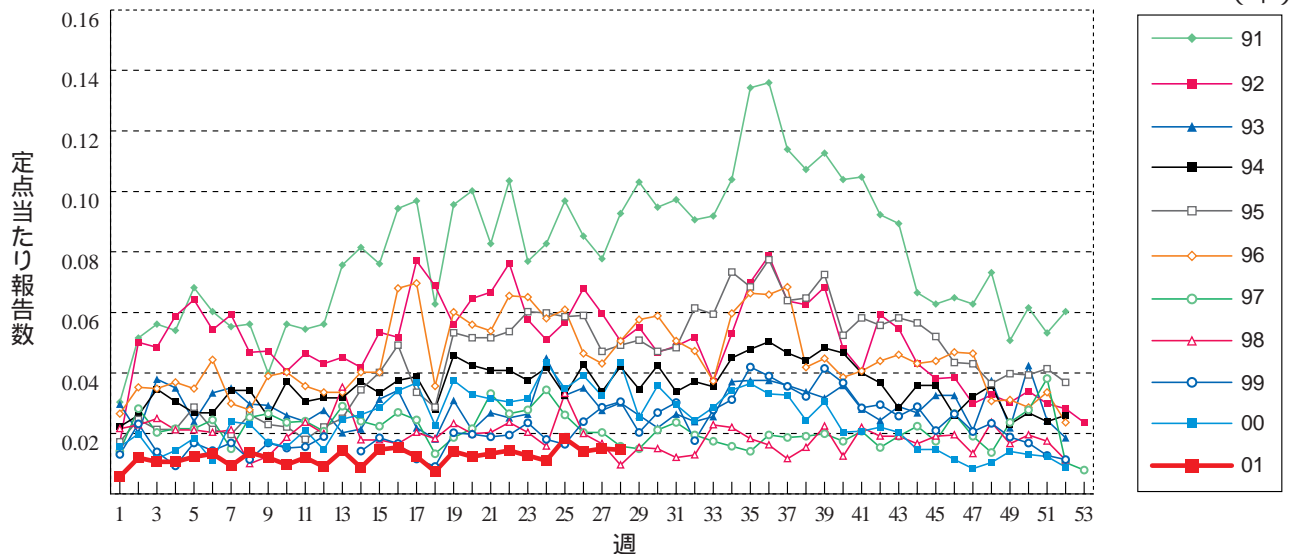
伝染性紅斑



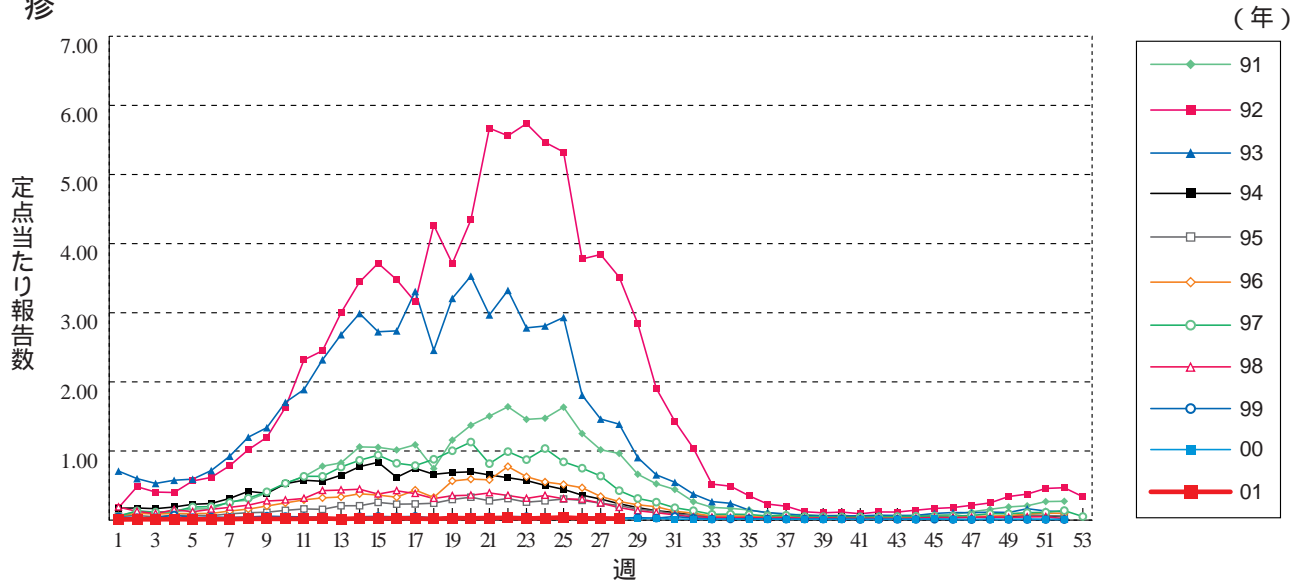
突発性発疹



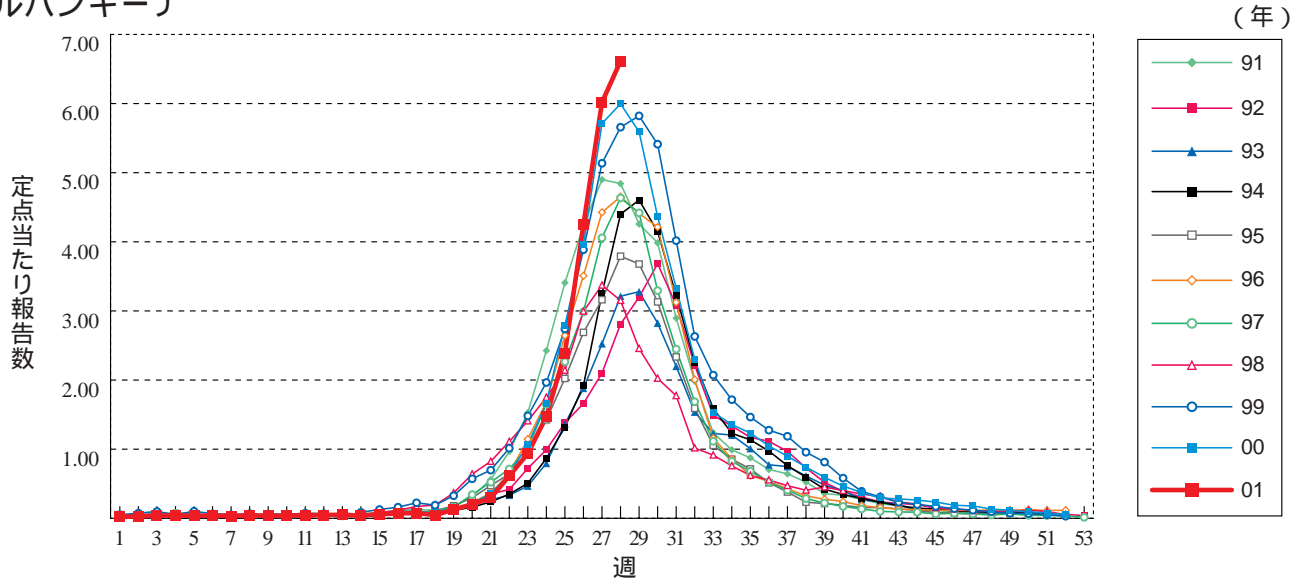
百日咳



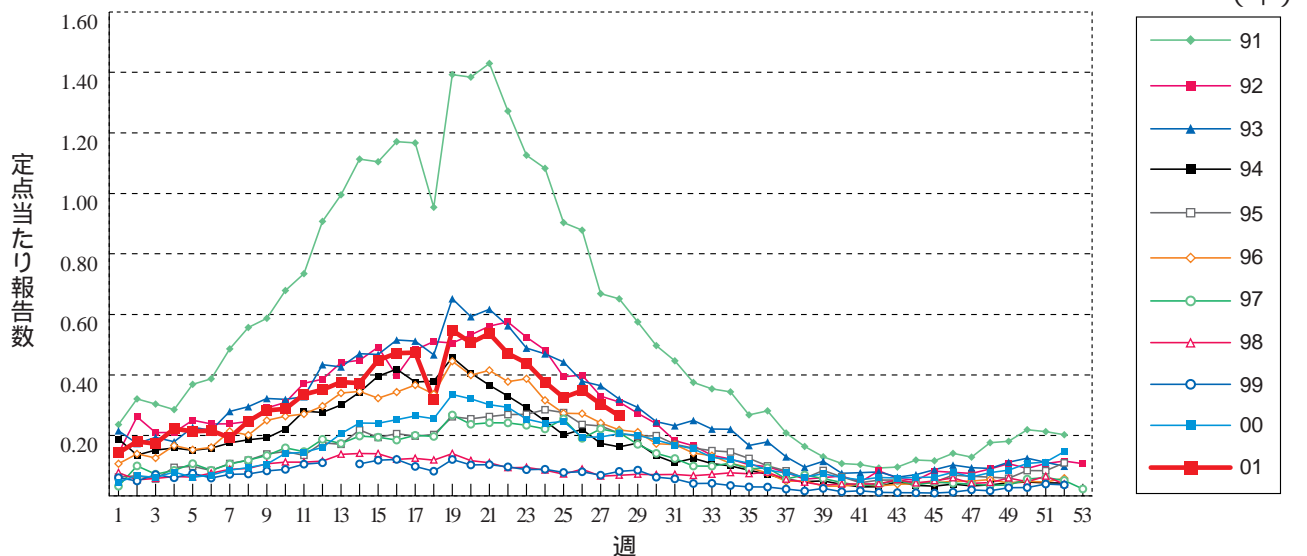
風 疹



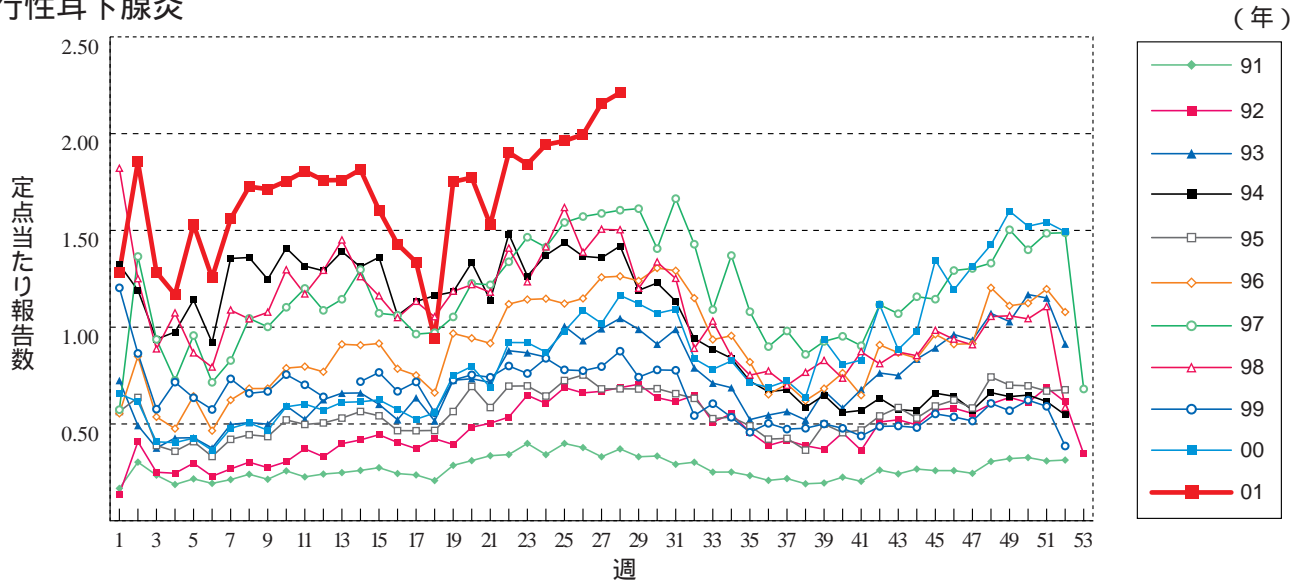
ヘルパンギーナ



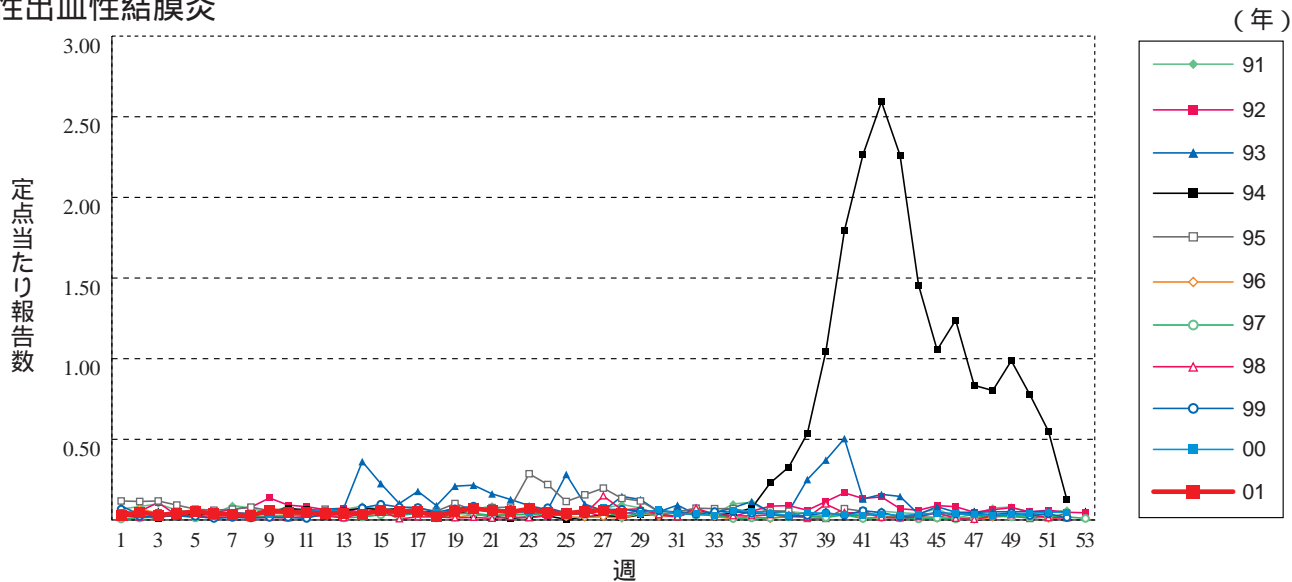
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



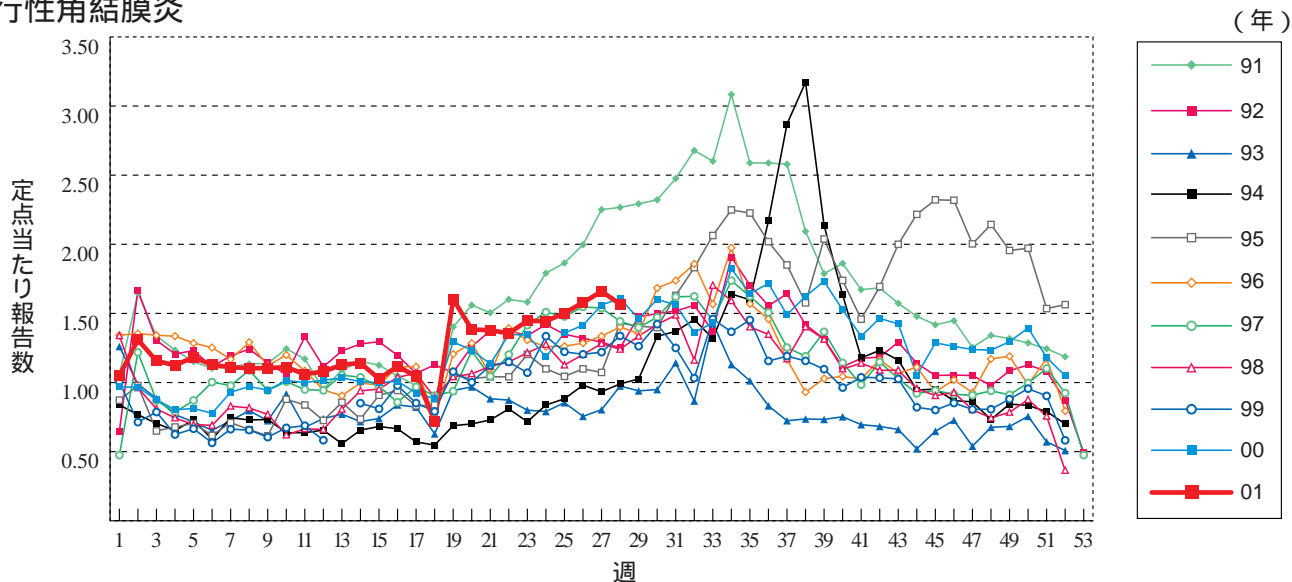
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

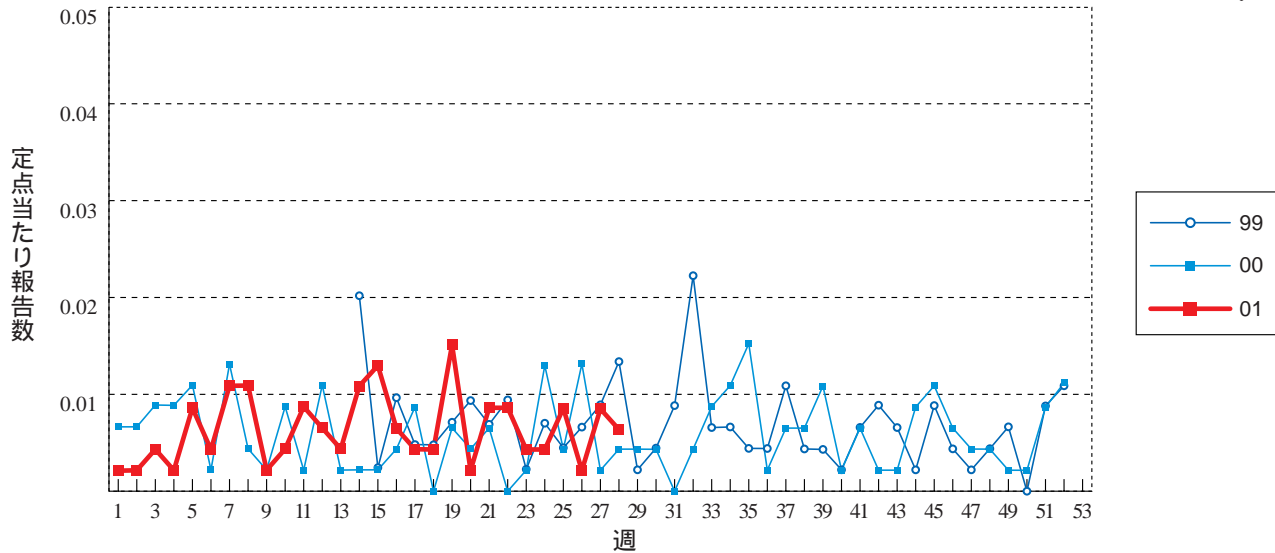


流行性角結膜炎



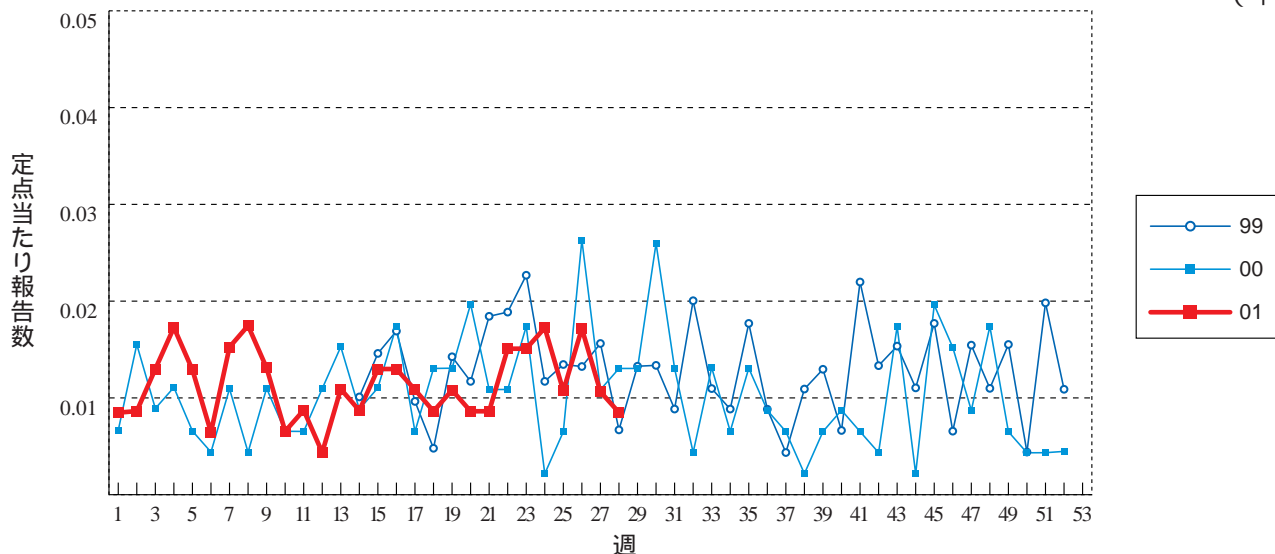
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



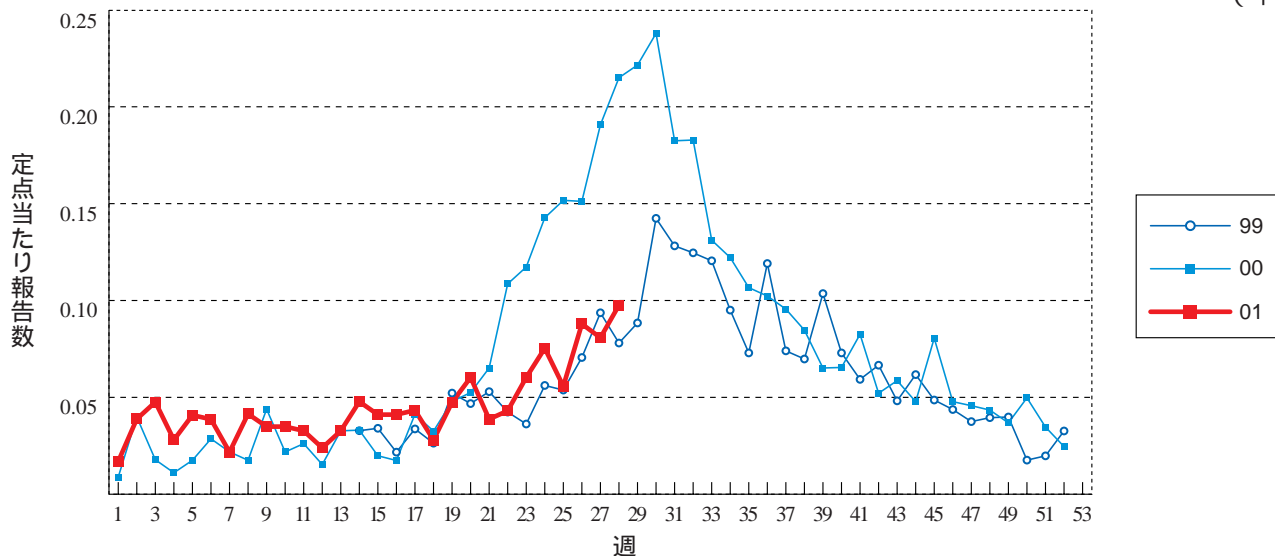
細菌性髄膜炎

(年)



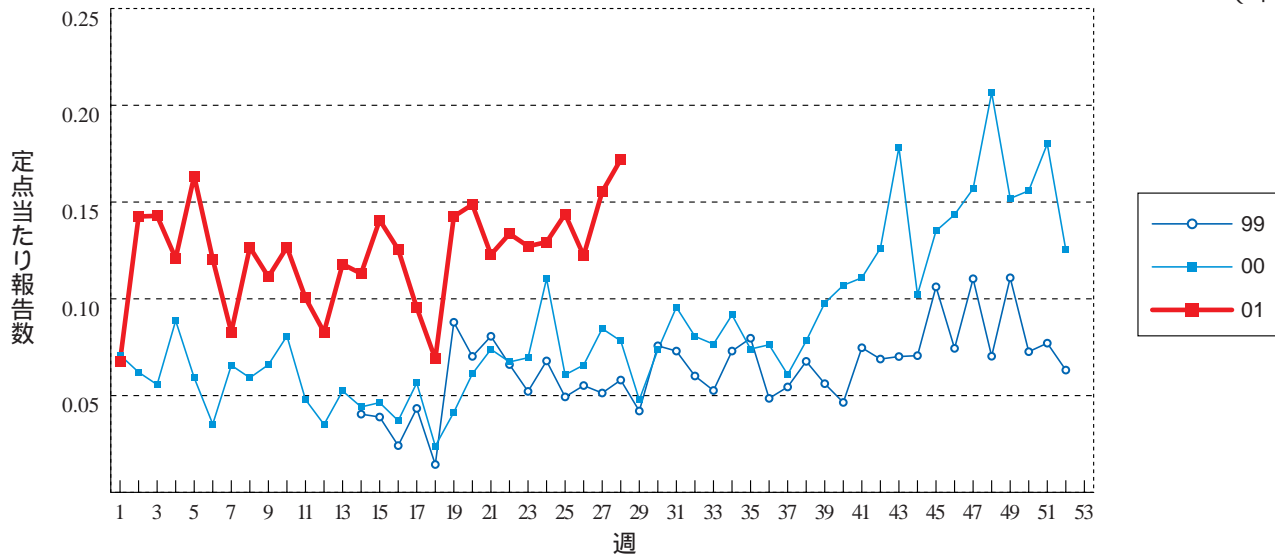
無菌性髄膜炎

(年)



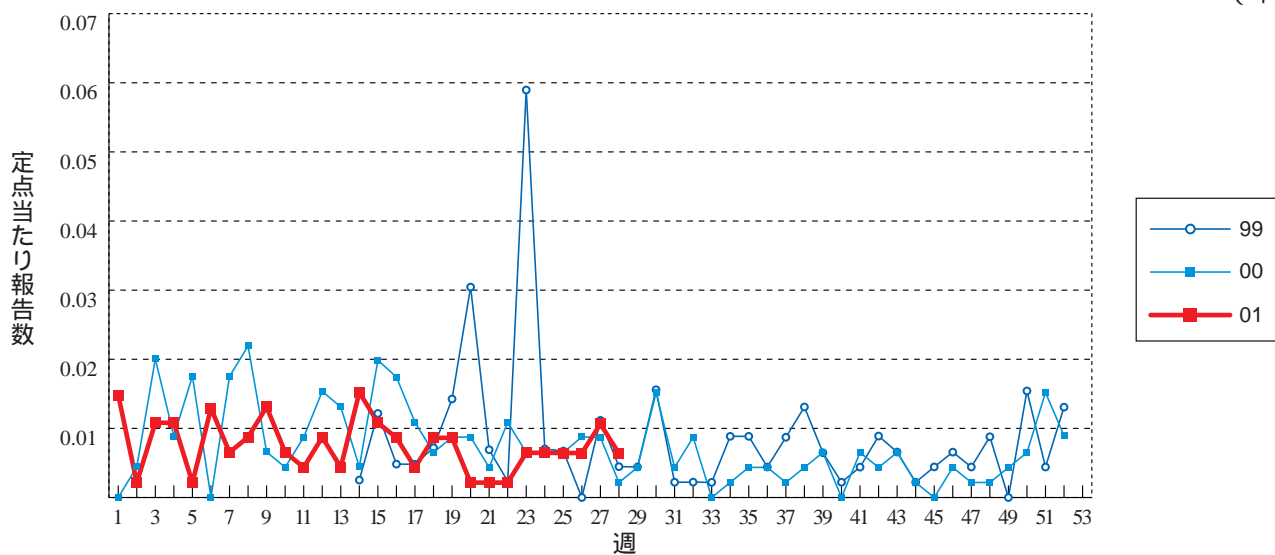
マイコプラズマ肺炎

(年)



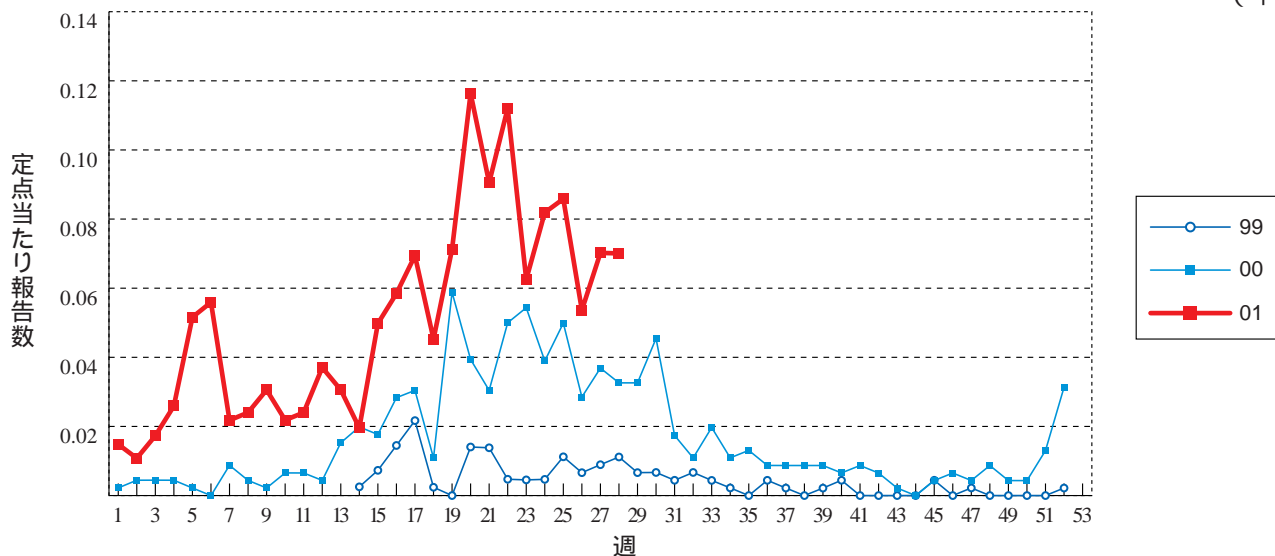
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)

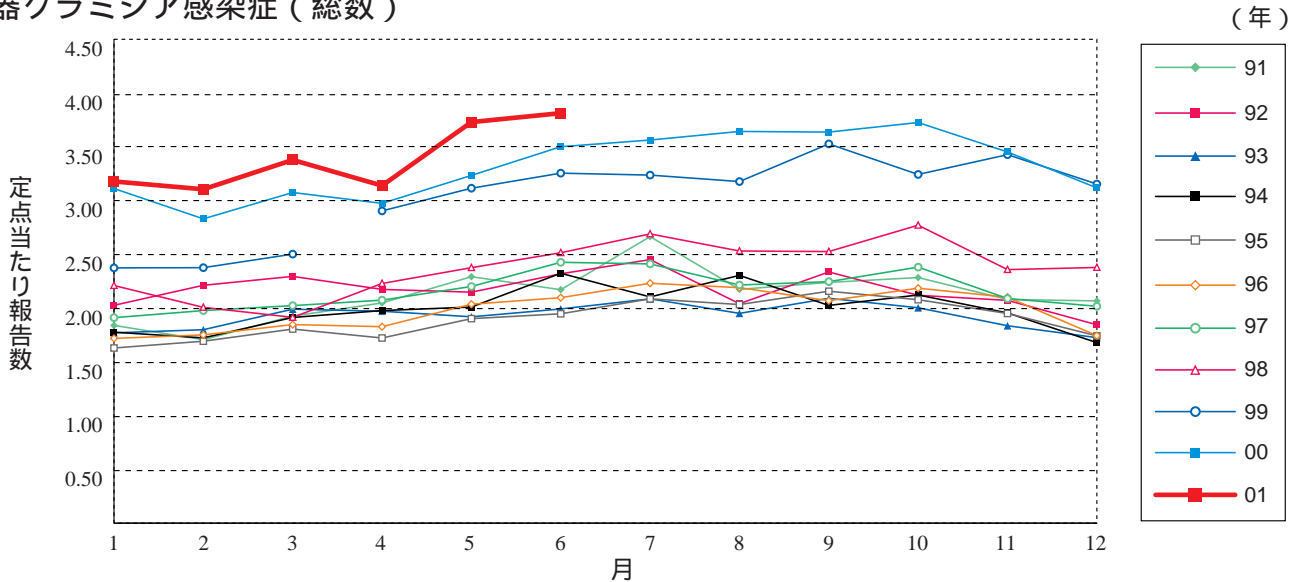




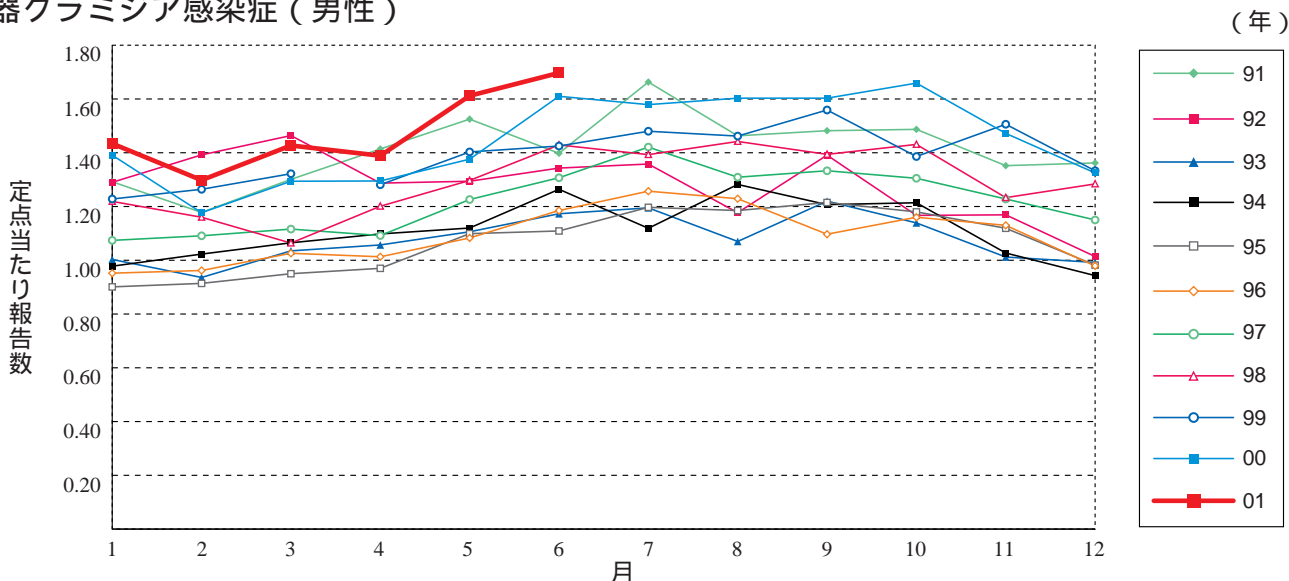
グラフ総覧(6月)

注)1999年4月以降は定点設定が変更されております。

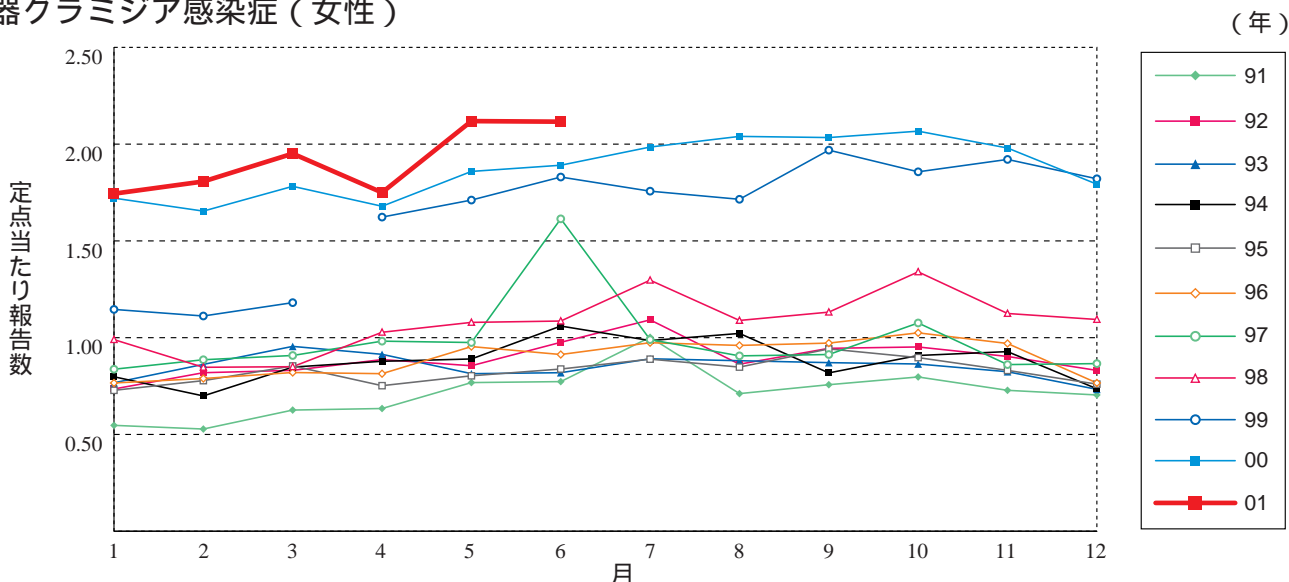
性器クラミジア感染症(総数)



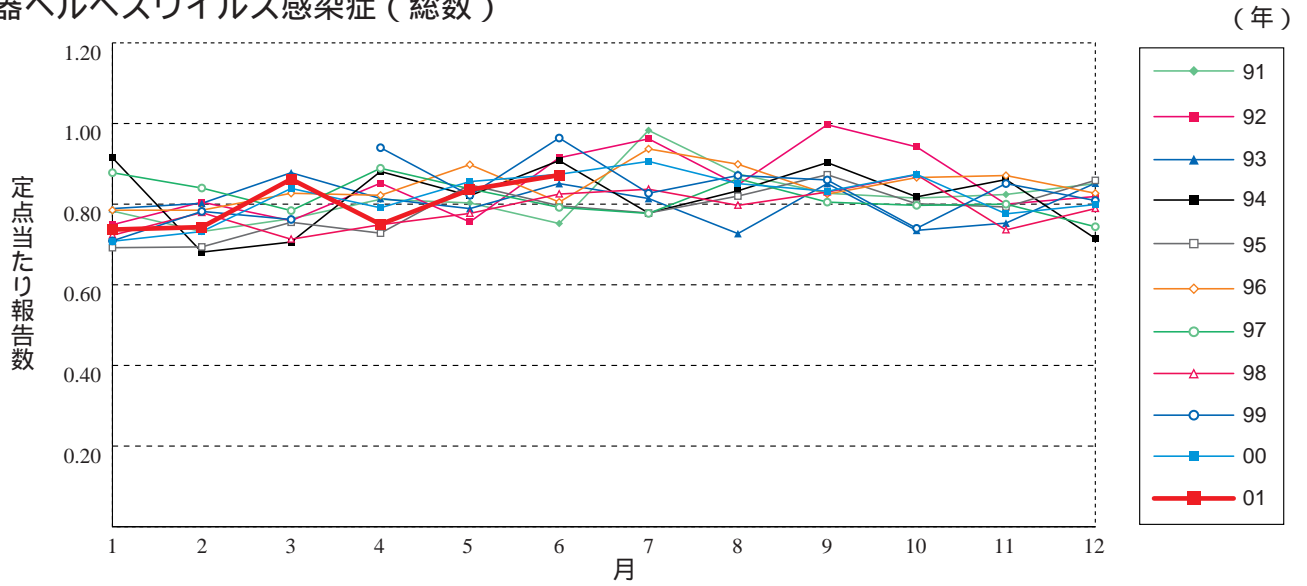
性器クラミジア感染症(男性)



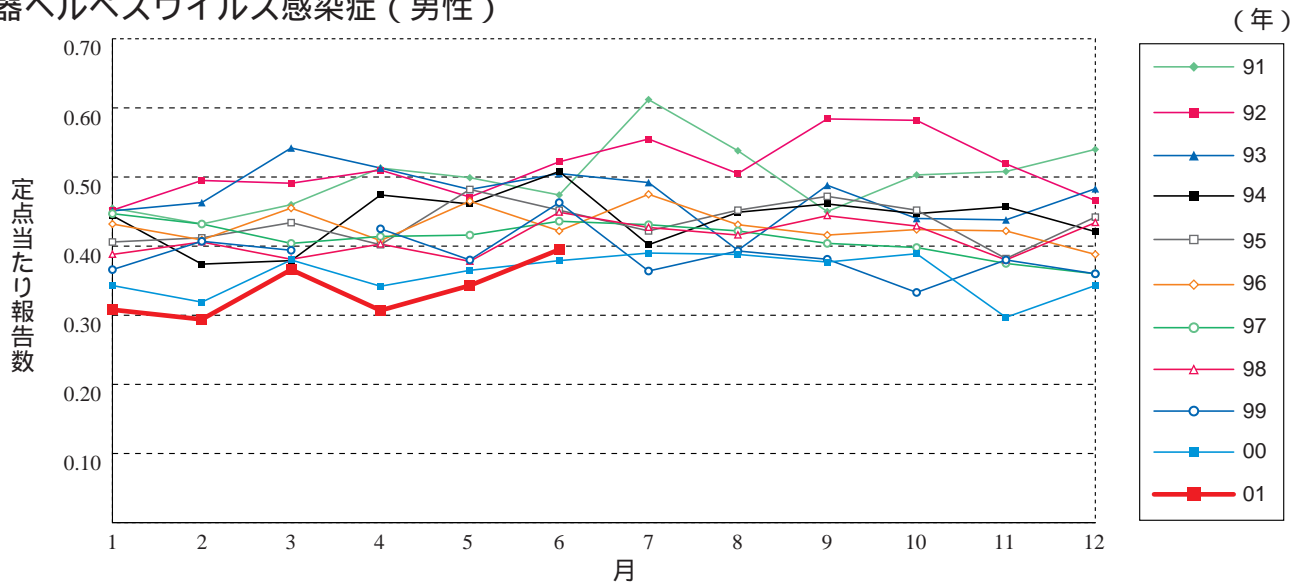
性器クラミジア感染症(女性)



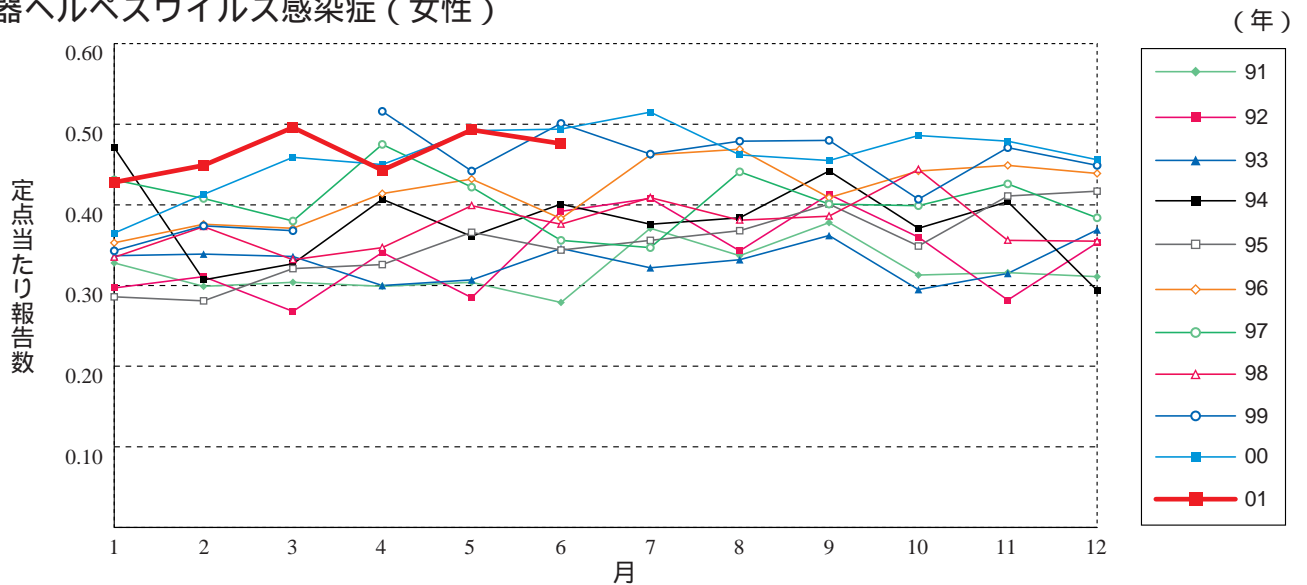
性器ヘルペスウイルス感染症（総数）



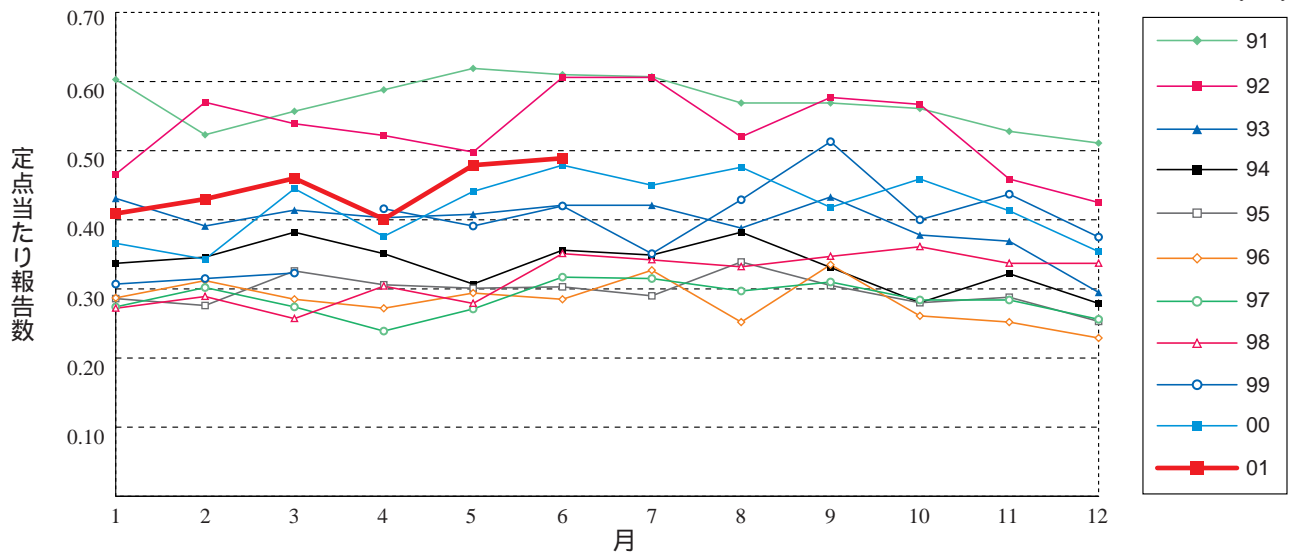
性器ヘルペスウイルス感染症（男性）



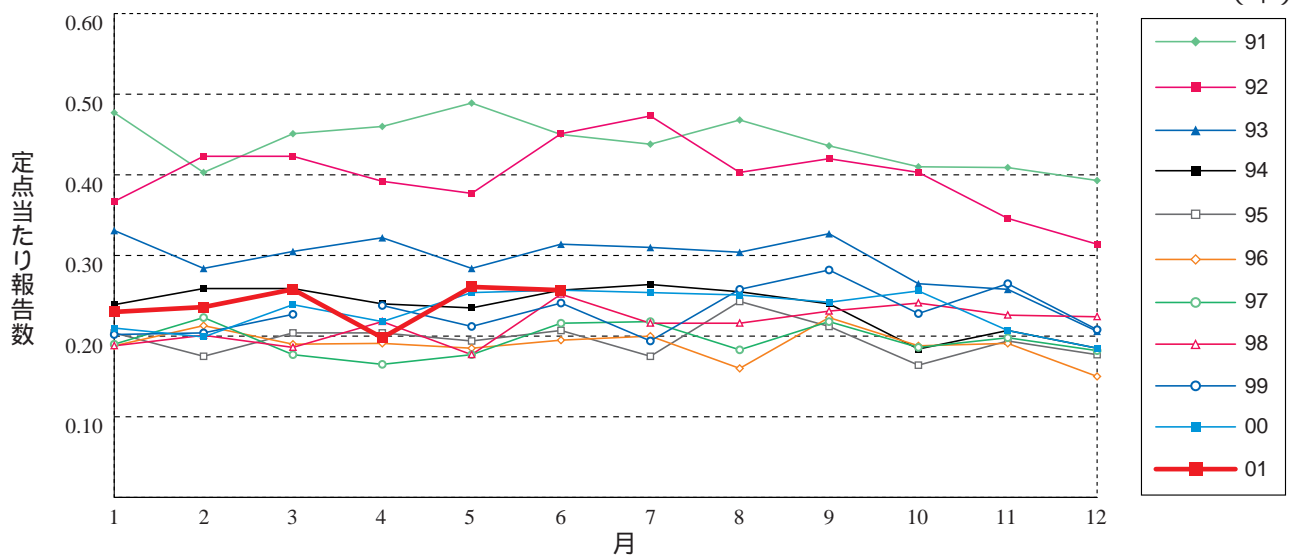
性器ヘルペスウイルス感染症（女性）



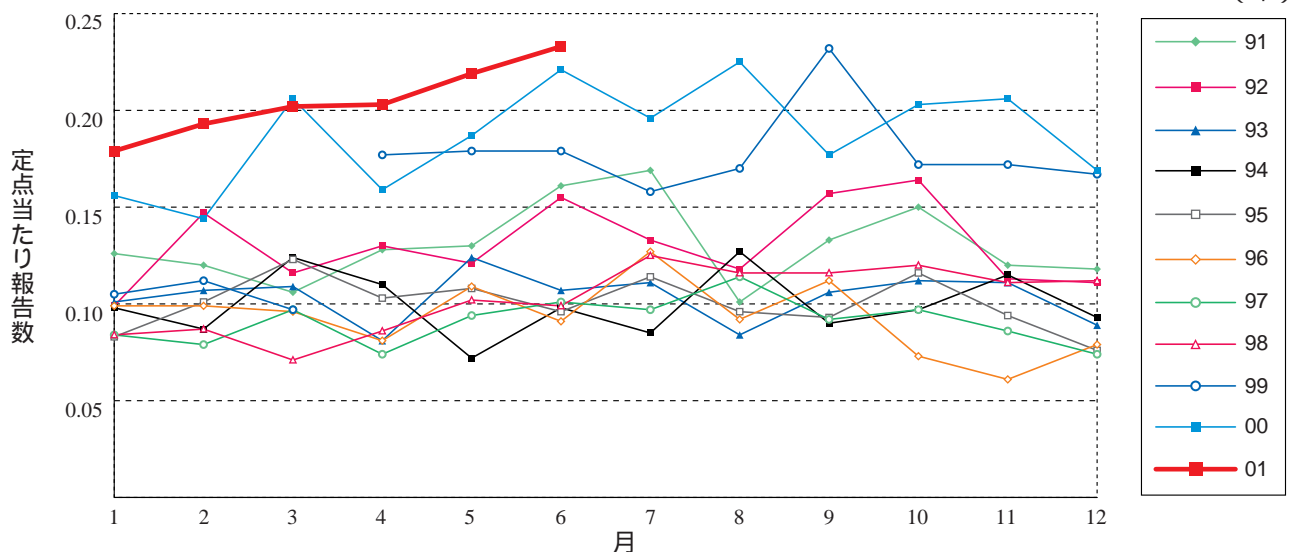
尖形コンジローム (総数)



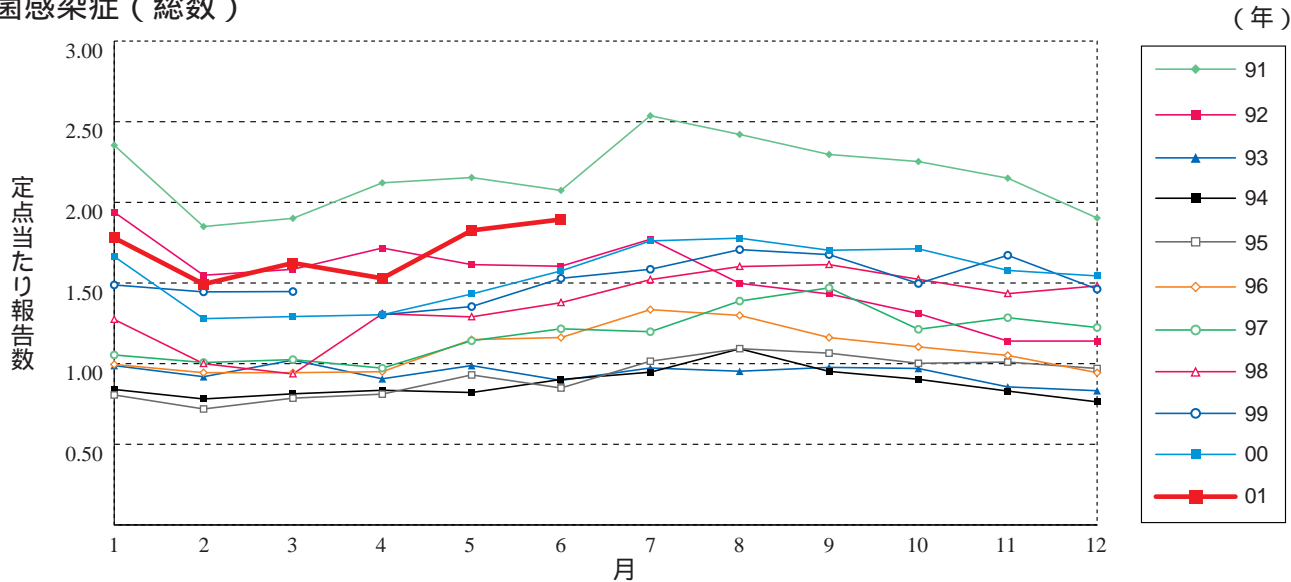
尖形コンジローム (男性)



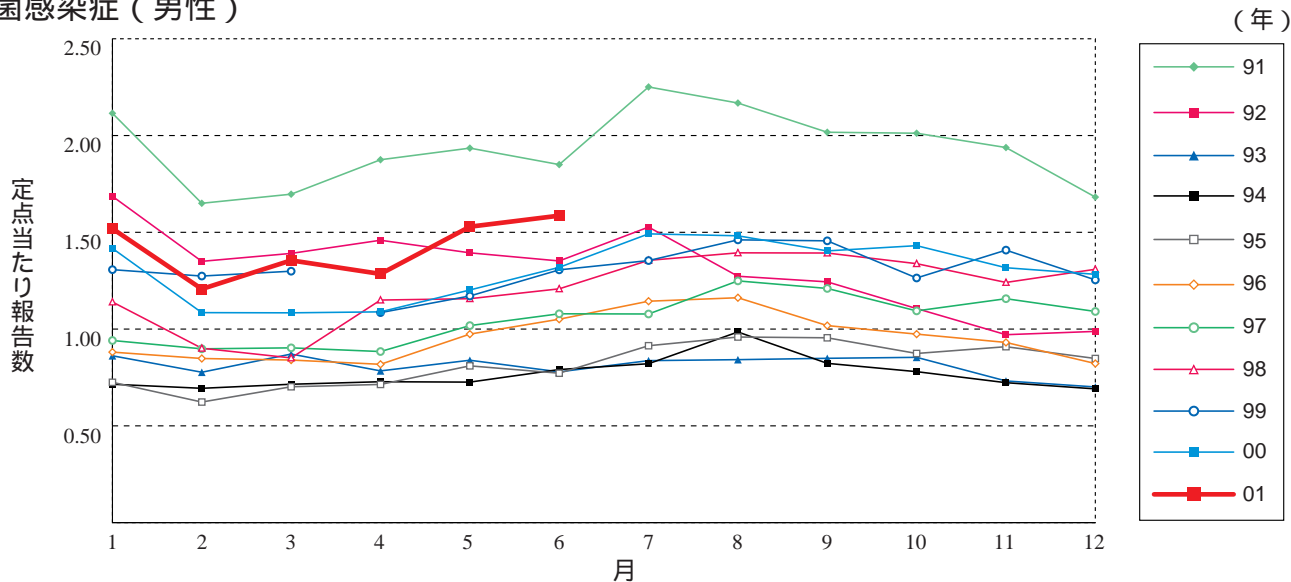
尖形コンジローム (女性)



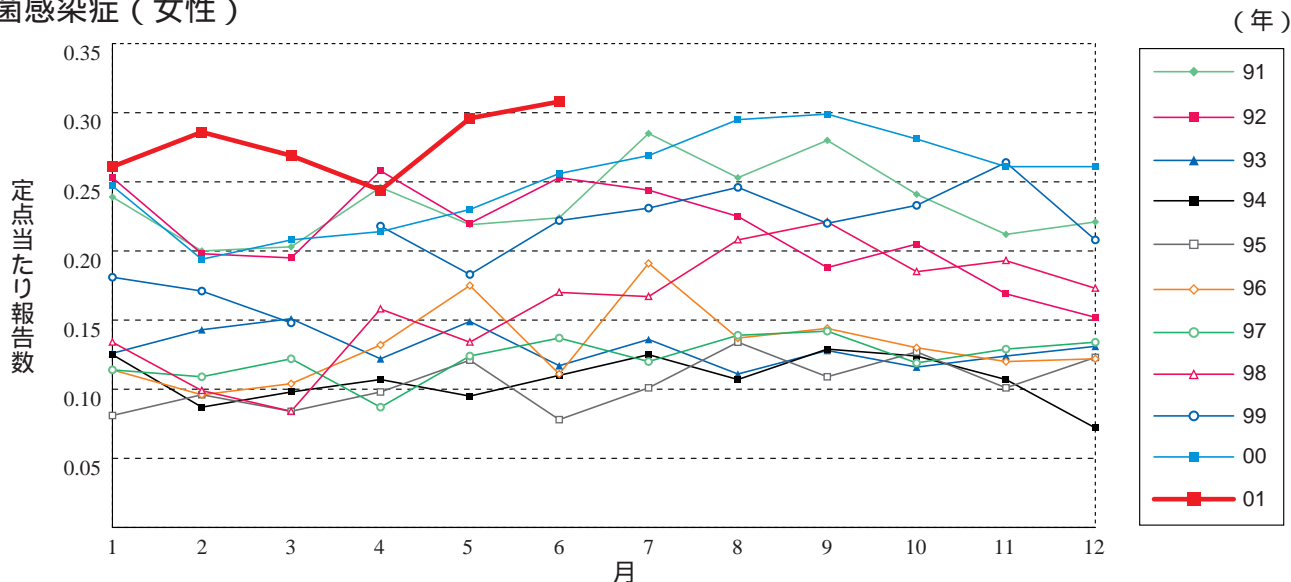
淋菌感染症 (総数)



淋菌感染症 (男性)

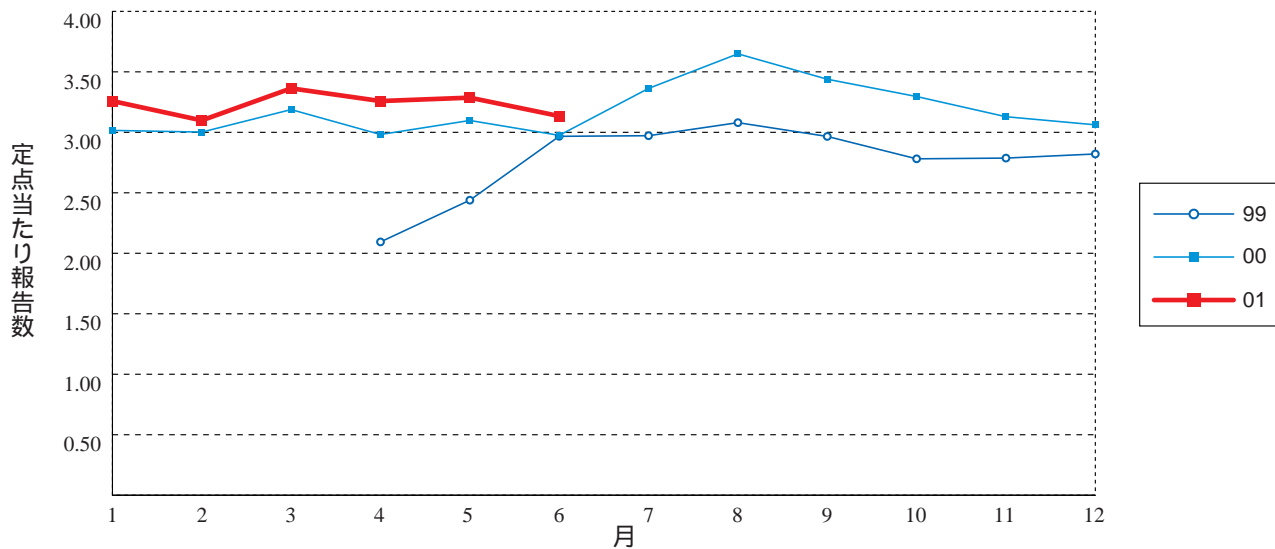


淋菌感染症 (女性)



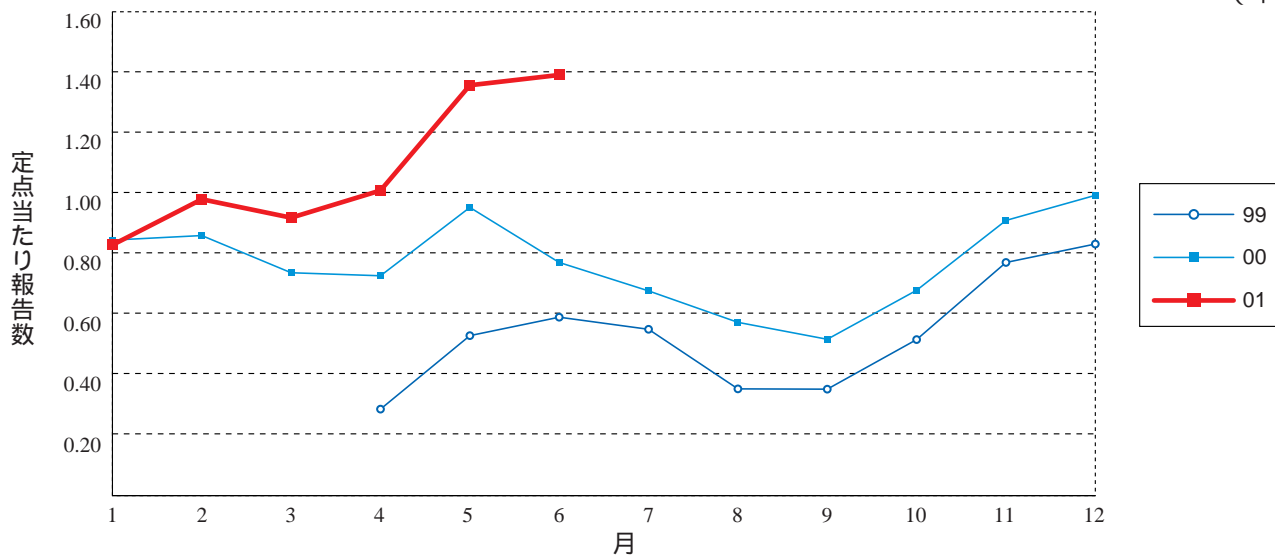
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

(年)



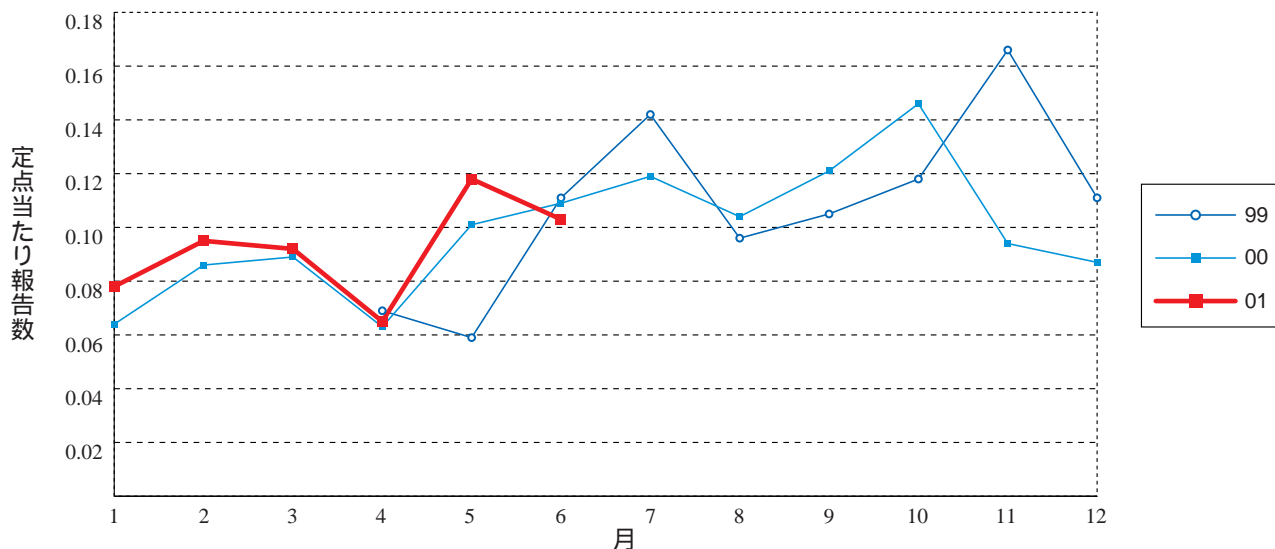
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

(年)



薬剤耐緑膿菌感染症

(年)





6月のデータ

注)表中の報告数は7月9日集計分であり、その後の報告数は次月以降の累計に反映されます。

第3121表 報告数・定点当り報告数，疾病・都道府県・性別（総数）

平成13年6月

	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖形コンジローム		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	3443	3.81	787	0.87	442	0.49	1710	1.89	1404	3.13	623	1.39	46	0.10
北海道	215	5.00	41	0.95	20	0.47	78	1.81	29	1.26	8	0.35	1	0.04
青森県	22	1.69	2	0.15	2	0.15	7	0.54	11	1.83	-	-	-	-
岩手県	54	4.15	10	0.77	10	0.77	24	1.85	48	2.40	5	0.25	2	0.10
宮城県	75	4.17	27	1.50	21	1.17	34	1.89	83	6.92	54	4.50	3	0.25
秋田県	24	1.71	3	0.21	2	0.14	2	0.14	10	1.25	12	1.50	-	-
山形県	46	4.60	1	0.10	3	0.30	4	0.40	27	2.70	33	3.30	-	-
福島県	51	3.19	4	0.25	18	1.13	42	2.63	7	1.00	-	-	-	-
茨城県	100	6.25	6	0.38	10	0.63	42	2.63	14	1.75	-	-	6	0.75
栃木県	73	4.56	6	0.38	14	0.88	48	3.00	18	2.57	4	0.57	-	-
群馬県	177	7.08	16	0.64	13	0.52	41	1.64	43	4.30	19	1.90	1	0.10
埼玉県	191	3.75	33	0.65	20	0.39	58	1.14	31	3.44	5	0.56	3	0.33
千葉県	98	2.51	40	1.03	22	0.56	40	1.03	50	5.56	118	13.11	-	-
東京都	262	6.55	86	2.15	39	0.98	122	3.05	109	5.19	22	1.05	3	0.14
神奈川県	140	2.33	21	0.35	9	0.15	79	1.32	24	2.18	20	1.82	-	-
新潟県	45	2.37	7	0.37	9	0.47	49	2.58	35	2.69	17	1.31	-	-
富山県	26	3.71	6	0.86	3	0.43	11	1.57	21	4.20	19	3.80	1	0.20
石川県	24	2.40	3	0.30	1	0.10	10	1.00	12	2.40	5	1.00	1	0.20
福井県	9	1.80	4	0.80	2	0.40	4	0.80	32	5.33	17	2.83	2	0.33
山梨県	29	4.83	1	0.17	1	0.17	6	1.00	24	2.40	19	1.90	1	0.10
長野県	62	3.88	12	0.75	16	1.00	26	1.63	31	2.82	20	1.82	-	-
岐阜県	26	1.73	5	0.33	3	0.20	26	1.73	14	2.80	2	0.40	-	-
静岡県	112	3.73	14	0.47	5	0.17	28	0.93	41	4.10	12	1.20	-	-
愛知県	208	4.08	48	0.94	19	0.37	139	2.73	46	3.83	-	-	-	-
三重県	32	2.13	8	0.53	5	0.33	7	0.47	45	5.00	1	0.11	1	0.11
滋賀県	9	1.00	10	1.11	2	0.22	2	0.22	30	4.29	-	-	-	-
京都府	63	2.74	13	0.57	6	0.26	5	0.22	1	0.14	-	-	2	0.29
大阪府	295	5.00	138	2.34	59	1.00	282	4.78	33	3.67	20	2.22	-	-
兵庫県	119	2.59	33	0.72	5	0.11	57	1.24	29	2.23	42	3.23	1	0.08
奈良県	30	3.33	5	0.56	5	0.56	17	1.89	22	3.67	8	1.33	-	-
和歌山県	9	1.13	7	0.88	1	0.13	6	0.75	25	2.50	2	0.20	2	0.20
鳥取県	14	2.80	-	-	2	0.40	3	0.60	10	2.00	3	0.60	1	0.20
島根県	8	1.33	-	-	2	0.33	4	0.67	39	4.88	8	1.00	-	-
岡山県	97	5.71	20	1.18	17	1.00	59	3.47	10	2.00	-	-	1	0.20
広島県	86	5.06	18	1.06	16	0.94	27	1.59	111	7.93	52	3.71	3	0.21
山口県	41	3.42	14	1.17	4	0.33	16	1.33	41	5.86	7	1.00	4	0.57
徳島県	8	1.33	3	0.50	2	0.33	3	0.50	7	1.00	1	0.14	-	-
香川県	25	2.78	3	0.33	4	0.44	16	1.78	25	5.00	9	1.80	-	-
愛媛県	24	2.18	4	0.36	5	0.45	18	1.64	1	0.17	1	0.17	-	-
高知県	16	2.67	-	-	-	-	10	1.67	49	6.13	14	1.75	5	0.63
福岡県	210	6.18	48	1.41	15	0.44	141	4.15	21	1.24	7	0.41	-	-
佐賀県	31	4.43	4	0.57	-	-	14	2.00	16	2.67	4	0.67	-	-
長崎県	22	2.75	15	1.88	5	0.63	5	0.63	2	0.20	-	-	-	-
熊本県	83	5.93	23	1.64	12	0.86	39	2.79	49	3.27	7	0.47	-	-
大分県	16	1.60	9	0.90	4	0.40	10	1.00	22	2.20	10	1.00	-	-
宮崎県	60	5.45	6	0.55	-	-	11	1.00	13	1.86	2	0.29	2	0.29
鹿児島県	48	3.00	9	0.56	7	0.44	33	2.06	12	1.00	-	-	-	-
沖縄県	28	2.33	1	0.08	2	0.17	5	0.42	31	4.43	14	2.00	-	-

第3121表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県・性別(男)

平成13年6月

	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖形コンジローム		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	1532	1.70	357	0.40	232	0.26	1432	1.59	884	1.97	377	0.84	31	0.07
北海道	62	1.44	13	0.30	6	0.14	59	1.37	19	0.83	6	0.26	1	0.04
青森県	3	0.23	-	-	-	-	3	0.23	8	1.33	-	-	-	-
岩手県	16	1.23	4	0.31	3	0.23	20	1.54	37	1.85	4	0.20	2	0.10
宮城県	37	2.06	11	0.61	12	0.67	30	1.67	46	3.83	31	2.58	3	0.25
秋田県	8	0.57	-	-	-	-	2	0.14	6	0.75	7	0.88	-	-
山形県	22	2.20	1	0.10	-	-	4	0.40	16	1.60	20	2.00	-	-
福島県	27	1.69	4	0.25	10	0.63	40	2.50	3	0.43	-	-	-	-
茨城県	48	3.00	3	0.19	8	0.50	38	2.38	11	1.38	-	-	4	0.50
栃木県	36	2.25	2	0.13	9	0.56	44	2.75	11	1.57	4	0.57	-	-
群馬県	89	3.56	3	0.12	6	0.24	30	1.20	30	3.00	11	1.10	1	0.10
埼玉県	55	1.08	8	0.16	11	0.22	49	0.96	14	1.56	4	0.44	2	0.22
千葉県	41	1.05	26	0.67	12	0.31	35	0.90	29	3.22	64	7.11	-	-
東京都	141	3.52	35	0.88	22	0.55	103	2.58	75	3.57	18	0.86	3	0.14
神奈川県	81	1.35	10	0.17	4	0.07	74	1.23	15	1.36	12	1.09	-	-
新潟県	32	1.68	5	0.26	8	0.42	47	2.47	23	1.77	12	0.92	-	-
富山県	16	2.29	3	0.43	1	0.14	10	1.43	12	2.40	16	3.20	-	-
石川県	15	1.50	1	0.10	1	0.10	10	1.00	7	1.40	3	0.60	1	0.20
福井県	3	0.60	4	0.80	2	0.40	4	0.80	23	3.83	8	1.33	2	0.33
山梨県	4	0.67	-	-	-	-	6	1.00	19	1.90	11	1.10	1	0.10
長野県	14	0.88	5	0.31	10	0.63	20	1.25	17	1.55	10	0.91	-	-
岐阜県	19	1.27	4	0.27	2	0.13	25	1.67	9	1.80	2	0.40	-	-
静岡県	44	1.47	7	0.23	3	0.10	21	0.70	23	2.30	7	0.70	-	-
愛知県	131	2.57	35	0.69	15	0.29	125	2.45	28	2.33	-	-	-	-
三重県	15	1.00	3	0.20	3	0.20	7	0.47	29	3.22	1	0.11	1	0.11
滋賀県	7	0.78	8	0.89	-	-	1	0.11	19	2.71	-	-	-	-
京都府	11	0.48	4	0.17	2	0.09	4	0.17	1	0.14	-	-	2	0.29
大阪府	158	2.68	68	1.15	44	0.75	202	3.42	22	2.44	15	1.67	-	-
兵庫県	53	1.15	10	0.22	2	0.04	57	1.24	15	1.15	21	1.62	1	0.08
奈良県	18	2.00	4	0.44	3	0.33	16	1.78	14	2.33	7	1.17	-	-
和歌山県	3	0.38	2	0.25	-	-	5	0.63	13	1.30	-	-	-	-
鳥取県	6	1.20	-	-	1	0.20	3	0.60	5	1.00	1	0.20	1	0.20
島根県	2	0.33	-	-	-	-	4	0.67	27	3.38	6	0.75	-	-
岡山県	27	1.59	4	0.24	6	0.35	46	2.71	6	1.20	-	-	-	-
広島県	26	1.53	8	0.47	4	0.24	25	1.47	69	4.93	32	2.29	-	-
山口県	19	1.58	8	0.67	4	0.33	13	1.08	24	3.43	4	0.57	2	0.29
徳島県	3	0.50	2	0.33	-	-	2	0.33	5	0.71	-	-	-	-
香川県	9	1.00	3	0.33	2	0.22	11	1.22	15	3.00	3	0.60	-	-
愛媛県	6	0.55	2	0.18	4	0.36	17	1.55	1	0.17	1	0.17	-	-
高知県	5	0.83	-	-	-	-	5	0.83	30	3.75	11	1.38	3	0.38
福岡県	115	3.38	20	0.59	4	0.12	124	3.65	13	0.76	4	0.24	-	-
佐賀県	17	2.43	2	0.29	-	-	13	1.86	13	2.17	1	0.17	-	-
長崎県	8	1.00	8	1.00	-	-	4	0.50	2	0.20	-	-	-	-
熊本県	19	1.36	7	0.50	5	0.36	28	2.00	34	2.27	5	0.33	-	-
大分県	6	0.60	4	0.40	1	0.10	9	0.90	10	1.00	4	0.40	-	-
宮崎県	32	2.91	1	0.09	-	-	9	0.82	9	1.29	2	0.29	1	0.14
鹿児島県	21	1.31	5	0.31	2	0.13	27	1.69	9	0.75	-	-	-	-
沖縄県	2	0.17	-	-	-	-	1	0.08	18	2.57	9	1.29	-	-

第3121表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県・性別(女)

平成13年6月

	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖形コンジローム		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	1911	2.12	430	0.48	210	0.23	278	0.31	520	1.16	246	0.55	15	0.03
北海道	153	3.56	28	0.65	14	0.33	19	0.44	10	0.43	2	0.09	-	-
青森県	19	1.46	2	0.15	2	0.15	4	0.31	3	0.50	-	-	-	-
岩手県	38	2.92	6	0.46	7	0.54	4	0.31	11	0.55	1	0.05	-	-
宮城県	38	2.11	16	0.89	9	0.50	4	0.22	37	3.08	23	1.92	-	-
秋田県	16	1.14	3	0.21	2	0.14	-	-	4	0.50	5	0.63	-	-
山形県	24	2.40	-	-	3	0.30	-	-	11	1.10	13	1.30	-	-
福島県	24	1.50	-	-	8	0.50	2	0.13	4	0.57	-	-	-	-
茨城県	52	3.25	3	0.19	2	0.13	4	0.25	3	0.38	-	-	2	0.25
栃木県	37	2.31	4	0.25	5	0.31	4	0.25	7	1.00	-	-	-	-
群馬県	88	3.52	13	0.52	7	0.28	11	0.44	13	1.30	8	0.80	-	-
埼玉県	136	2.67	25	0.49	9	0.18	9	0.18	17	1.89	1	0.11	1	0.11
千葉県	57	1.46	14	0.36	10	0.26	5	0.13	21	2.33	54	6.00	-	-
東京都	121	3.02	51	1.27	17	0.43	19	0.48	34	1.62	4	0.19	-	-
神奈川県	59	0.98	11	0.18	5	0.08	5	0.08	9	0.82	8	0.73	-	-
新潟県	13	0.68	2	0.11	1	0.05	2	0.11	12	0.92	5	0.38	-	-
富山県	10	1.43	3	0.43	2	0.29	1	0.14	9	1.80	3	0.60	1	0.20
石川県	9	0.90	2	0.20	-	-	-	-	5	1.00	2	0.40	-	-
福井県	6	1.20	-	-	-	-	-	-	9	1.50	9	1.50	-	-
山梨県	25	4.17	1	0.17	1	0.17	-	-	5	0.50	8	0.80	-	-
長野県	48	3.00	7	0.44	6	0.38	6	0.38	14	1.27	10	0.91	-	-
岐阜県	7	0.47	1	0.07	1	0.07	1	0.07	5	1.00	-	-	-	-
静岡県	68	2.27	7	0.23	2	0.07	7	0.23	18	1.80	5	0.50	-	-
愛知県	77	1.51	13	0.25	4	0.08	14	0.27	18	1.50	-	-	-	-
三重県	17	1.13	5	0.33	2	0.13	-	-	16	1.78	-	-	-	-
滋賀県	2	0.22	2	0.22	2	0.22	1	0.11	11	1.57	-	-	-	-
京都府	52	2.26	9	0.39	4	0.17	1	0.04	-	-	-	-	-	-
大阪府	137	2.32	70	1.19	15	0.25	80	1.36	11	1.22	5	0.56	-	-
兵庫県	66	1.43	23	0.50	3	0.07	-	-	14	1.08	21	1.62	-	-
奈良県	12	1.33	1	0.11	2	0.22	1	0.11	8	1.33	1	0.17	-	-
和歌山県	6	0.75	5	0.63	1	0.13	1	0.13	12	1.20	2	0.20	2	0.20
鳥取県	8	1.60	-	-	1	0.20	-	-	5	1.00	2	0.40	-	-
島根県	6	1.00	-	-	2	0.33	-	-	12	1.50	2	0.25	-	-
岡山県	70	4.12	16	0.94	11	0.65	13	0.76	4	0.80	-	-	1	0.20
広島県	60	3.53	10	0.59	12	0.71	2	0.12	42	3.00	20	1.43	3	0.21
山口県	22	1.83	6	0.50	-	-	3	0.25	17	2.43	3	0.43	2	0.29
徳島県	5	0.83	1	0.17	2	0.33	1	0.17	2	0.29	1	0.14	-	-
香川県	16	1.78	-	-	2	0.22	5	0.56	10	2.00	6	1.20	-	-
愛媛県	18	1.64	2	0.18	1	0.09	1	0.09	-	-	-	-	-	-
高知県	11	1.83	-	-	-	-	5	0.83	19	2.38	3	0.38	2	0.25
福岡県	95	2.79	28	0.82	11	0.32	17	0.50	8	0.47	3	0.18	-	-
佐賀県	14	2.00	2	0.29	-	-	1	0.14	3	0.50	3	0.50	-	-
長崎県	14	1.75	7	0.88	5	0.63	1	0.13	-	-	-	-	-	-
熊本県	64	4.57	16	1.14	7	0.50	11	0.79	15	1.00	2	0.13	-	-
大分県	10	1.00	5	0.50	3	0.30	1	0.10	12	1.20	6	0.60	-	-
宮崎県	28	2.55	5	0.45	-	-	2	0.18	4	0.57	-	-	1	0.14
鹿児島県	27	1.69	4	0.25	5	0.31	6	0.38	3	0.25	-	-	-	-
沖縄県	26	2.17	1	0.08	2	0.17	4	0.33	13	1.86	5	0.71	-	-

注)7月18日集計分

第1104表 新登録患者数・都道府県別

平成13年6月

	結核
	報告数
総数	3329
北海道	95
青森県	31
岩手県	18
宮城県	51
秋田県	22
山形県	10
福島県	31
茨城県	75
栃木県	31
群馬県	32
埼玉県	126
千葉県	151
東京都	387
神奈川県	212
新潟県	44
富山県	21
石川県	22
福井県	19
山梨県	12
長野県	29
岐阜県	75
静岡県	70
愛知県	186
三重県	39
滋賀県	25
京都府	63
大阪府	435
兵庫県	220
奈良県	52
和歌山県	42
鳥取県	15
島根県	11
岡山県	46
広島県	44
山口県	40
徳島県	33
香川県	23
愛媛県	28
高知県	25
福岡県	157
佐賀県	18
長崎県	62
熊本県	29
大分県	49
宮崎県	34
鹿児島県	53
沖縄県	36



28週のデータ

注)表中の報告数は7月19日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年28週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	25	8	333	3	37	-	10
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	8	1	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	17	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	16	1	3	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	3	67	1	13	-	7
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	23	-	-	-	2
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	10	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	9	-	1	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	21	-	3	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	1	25	-	5	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	5	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	16	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年28週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	135	1481	4	195	-	5	-	-	-	23	-	-	6	457
北海道	-	-	-	-	3	39	-	2	-	5	-	-	-	-	-	-	1	6
青森県	-	-	-	-	2	8	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	1	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
宮城県	-	-	-	-	1	14	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	19
秋田県	-	-	-	-	3	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山形県	-	-	-	-	5	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	1	16	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
茨城県	-	-	-	-	2	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
栃木県	-	-	-	-	1	17	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	5	28	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15
埼玉県	-	-	-	-	4	85	-	7	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8
千葉県	-	-	-	-	2	173	1	8	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
東京都	-	-	-	-	12	130	-	64	-	-	-	-	-	6	-	-	-	62
神奈川県	-	-	-	-	10	142	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
新潟県	-	-	-	-	1	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	1	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	1	31	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
福井県	-	-	-	-	3	7	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長野県	-	-	-	-	1	12	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
岐阜県	-	-	-	-	1	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40
静岡県	-	-	-	-	1	20	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	-	5	67	1	9	-	-	-	-	-	4	-	-	-	13
三重県	-	-	-	-	3	17	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	23	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	1	42	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
大阪府	-	-	-	-	31	161	-	31	-	-	-	-	-	3	-	-	-	46
兵庫県	-	-	-	-	9	65	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	1	44
奈良県	-	-	-	-	-	23	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
島根県	-	-	-	-	2	20	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	4	26	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
広島県	-	-	-	-	1	32	-	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	11
山口県	-	-	-	-	1	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	2	10	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
福岡県	-	-	-	-	4	32	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	25
佐賀県	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	2	26	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
熊本県	-	-	-	-	2	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	3	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9
宮崎県	-	-	-	-	2	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
鹿児島県	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
沖縄県	-	-	-	-	-	10	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年28週

	Q熱		狂犬病		クリプトスפורジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		コクシジオイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	13	-	-	-	3	1	58	-	25	8	458	-	1	1	76	-	-
北海道	-	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	8	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	15	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	15	-	-	-	2	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	1	32	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	2	1	5	-	2	5	194	-	-	1	35	-	-
神奈川県	-	1	-	-	-	1	-	4	-	1	-	43	-	-	-	7	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	6	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	1	-	1	-	7	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	3	-	2	-	17	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	6	-	-	-	6	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	35	-	-	-	11	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	2	-	11	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年28週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	4	-	-	-	-	2	190	-	16	-	14	-	-	-	-	2	279
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	10
青森県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	1	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
山形県	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
東京都	-	1	-	-	-	-	-	4	-	8	-	-	-	-	-	-	1	50
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	9
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	62
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	14
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	13
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	3	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年28週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	32	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	2	52	-	2	-	41
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	2
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4
栃木県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
千葉県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
東京都	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	-	-	-	5
神奈川県	-	2	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
新潟県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
愛知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	2
広島県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年28週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	164	0.04	1335	0.44	2224	0.74	7266	2.41	4003	1.33	10277	3.40	2168	0.72	2865	0.95	44	0.01
北海道	6	0.03	44	0.30	200	1.38	205	1.41	291	2.01	284	1.96	43	0.30	91	0.63	-	-
青森県	11	0.17	26	0.62	30	0.71	74	1.76	59	1.40	47	1.12	29	0.69	29	0.69	-	-
岩手県	2	0.03	13	0.35	26	0.70	54	1.46	52	1.41	12	0.32	28	0.76	21	0.57	1	0.03
宮城県	2	0.02	22	0.37	70	1.19	185	3.14	142	2.41	90	1.53	90	1.53	74	1.25	-	-
秋田県	2	0.04	2	0.06	24	0.69	98	2.80	44	1.26	293	8.37	58	1.66	30	0.86	-	-
山形県	1	0.02	7	0.23	61	2.03	82	2.73	40	1.33	57	1.90	77	2.57	33	1.10	1	0.03
福島県	1	0.01	19	0.40	16	0.33	91	1.90	75	1.56	25	0.52	19	0.40	52	1.08	-	-
茨城県	3	0.03	18	0.25	46	0.63	111	1.52	48	0.66	59	0.81	26	0.36	56	0.77	-	-
栃木県	-	-	10	0.22	45	0.98	103	2.24	59	1.28	19	0.41	24	0.52	55	1.20	1	0.02
群馬県	-	-	32	0.52	87	1.43	97	1.59	74	1.21	107	1.75	46	0.75	53	0.87	-	-
埼玉県	13	0.05	150	0.94	172	1.07	396	2.48	368	2.30	502	3.14	243	1.52	169	1.06	3	0.02
千葉県	-	-	82	0.64	142	1.11	290	2.27	218	1.70	637	4.98	129	1.01	153	1.20	5	0.04
東京都	-	-	28	0.20	35	0.25	285	2.01	116	0.82	190	1.34	64	0.45	77	0.54	-	-
神奈川県	21	0.07	137	0.67	102	0.50	434	2.12	235	1.15	364	1.78	130	0.63	246	1.20	-	-
新潟県	2	0.02	25	0.42	55	0.92	135	2.25	87	1.45	134	2.23	23	0.38	52	0.87	-	-
富山県	-	-	2	0.07	56	1.93	64	2.21	24	0.83	10	0.34	23	0.79	32	1.10	-	-
石川県	-	-	4	0.14	9	0.31	112	3.86	22	0.76	34	1.17	29	1.00	21	0.72	2	0.07
福井県	-	-	2	0.09	23	1.05	108	4.91	24	1.09	198	9.00	25	1.14	27	1.23	1	0.05
山梨県	2	0.05	3	0.12	12	0.48	30	1.20	26	1.04	178	7.12	33	1.32	7	0.28	-	-
長野県	-	-	21	0.39	65	1.20	134	2.48	142	2.63	196	3.63	49	0.91	51	0.94	-	-
岐阜県	19	0.26	42	0.89	24	0.51	59	1.26	89	1.89	224	4.77	22	0.47	46	0.98	-	-
静岡県	2	0.01	81	0.96	46	0.55	208	2.48	99	1.18	329	3.92	69	0.82	98	1.17	3	0.04
愛知県	-	-	130	0.71	107	0.59	342	1.88	188	1.03	430	2.36	193	1.06	175	0.96	2	0.01
三重県	1	0.01	25	0.56	32	0.71	168	3.73	58	1.29	229	5.09	55	1.22	57	1.27	-	-
滋賀県	-	-	40	1.25	20	0.63	56	1.75	28	0.88	18	0.56	12	0.38	23	0.72	-	-
京都府	7	0.06	12	0.16	34	0.45	237	3.12	51	0.67	64	0.84	37	0.49	56	0.74	-	-
大阪府	10	0.03	34	0.18	93	0.48	446	2.30	263	1.36	44	0.23	86	0.44	154	0.79	9	0.05
兵庫県	1	0.01	22	0.17	65	0.52	375	2.98	194	1.54	333	2.64	51	0.40	134	1.06	3	0.02
奈良県	-	-	11	0.31	13	0.37	81	2.31	35	1.00	16	0.46	38	1.09	26	0.74	1	0.03
和歌山県	-	-	15	0.48	8	0.26	50	1.61	30	0.97	6	0.19	3	0.10	26	0.84	-	-
鳥取県	1	0.03	10	0.53	49	2.58	109	5.74	18	0.95	6	0.32	4	0.21	25	1.32	-	-
島根県	-	-	1	0.04	7	0.30	47	2.04	14	0.61	19	0.83	1	0.04	21	0.91	-	-
岡山県	8	0.10	14	0.26	30	0.56	106	1.96	25	0.46	50	0.93	11	0.20	23	0.43	2	0.04
広島県	1	0.01	36	0.48	49	0.65	186	2.48	54	0.72	154	2.05	52	0.69	48	0.64	2	0.03
山口県	-	-	33	0.67	34	0.69	114	2.33	65	1.33	834	17.02	28	0.57	66	1.35	1	0.02
徳島県	3	0.08	5	0.22	16	0.70	55	2.39	33	1.43	59	2.57	15	0.65	20	0.87	-	-
香川県	-	-	9	0.28	20	0.63	68	2.13	29	0.91	47	1.47	12	0.38	28	0.88	2	0.06
愛媛県	-	-	11	0.28	19	0.49	133	3.41	73	1.87	68	1.74	45	1.15	49	1.26	1	0.03
高知県	-	-	10	0.32	20	0.65	58	1.87	36	1.16	79	2.55	11	0.35	18	0.58	-	-
福岡県	6	0.03	47	0.45	91	0.87	412	3.92	152	1.45	1123	10.70	95	0.90	133	1.27	1	0.01
佐賀県	-	-	13	0.57	16	0.70	19	0.83	62	2.70	376	16.35	8	0.35	38	1.65	-	-
長崎県	-	-	9	0.19	12	0.25	113	2.35	25	0.52	224	4.67	34	0.71	38	0.79	-	-
熊本県	1	0.01	5	0.10	33	0.67	128	2.61	41	0.84	411	8.39	24	0.49	55	1.12	-	-
大分県	-	-	35	0.97	35	0.97	195	5.42	63	1.75	612	17.00	19	0.53	50	1.39	1	0.03
宮崎県	-	-	12	0.32	53	1.43	175	4.73	30	0.81	368	9.95	36	0.97	59	1.59	2	0.05
鹿児島県	11	0.11	24	0.40	18	0.30	224	3.73	73	1.22	708	11.80	18	0.30	57	0.95	-	-
沖縄県	27	0.47	2	0.06	4	0.12	14	0.41	29	0.85	10	0.29	1	0.03	13	0.38	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年28週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	69	0.02	19967	6.61	799	0.26	6675	2.21	26	0.04	994	1.57	3	0.01	4	0.01	46	0.10
北海道	8	0.06	230	1.59	81	0.56	259	1.79	-	-	45	1.55	-	-	-	-	-	-
青森県	10	0.24	57	1.36	8	0.19	72	1.71	-	-	22	2.00	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	110	2.97	1	0.03	65	1.76	-	-	17	1.42	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	496	8.41	9	0.15	69	1.17	-	-	4	0.36	-	-	-	-	-	-
秋田県	1	0.03	69	1.97	5	0.14	43	1.23	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	151	5.03	1	0.03	50	1.67	1	0.13	16	2.00	-	-	-	-	3	0.30
福島県	-	-	751	15.65	19	0.40	54	1.13	-	-	29	2.42	-	-	-	-	-	-
茨城県	2	0.03	283	3.88	9	0.12	191	2.62	-	-	65	4.06	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.02	286	6.22	2	0.04	68	1.48	-	-	27	2.25	-	-	-	-	1	0.14
群馬県	-	-	589	9.66	3	0.05	63	1.03	-	-	56	4.00	-	-	-	-	-	-
埼玉県	3	0.02	2002	12.51	32	0.20	427	2.67	1	0.03	49	1.36	-	-	-	-	-	-
千葉県	4	0.03	1082	8.45	27	0.21	393	3.07	3	0.09	38	1.15	-	-	-	-	-	-
東京都	1	0.01	1180	8.31	18	0.13	139	0.98	-	-	22	1.57	-	-	-	-	1	0.04
神奈川県	3	0.01	2198	10.72	36	0.18	508	2.48	1	0.02	75	1.79	-	-	1	0.09	-	-
新潟県	-	-	671	11.18	-	-	237	3.95	-	-	8	0.89	-	-	-	-	1	0.08
富山県	-	-	122	4.21	-	-	89	3.07	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
石川県	2	0.07	89	3.07	1	0.03	172	5.93	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
福井県	2	0.09	71	3.23	5	0.23	89	4.05	-	-	12	4.00	-	-	-	-	-	-
山梨県	1	0.04	77	3.08	2	0.08	33	1.32	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	333	6.17	1	0.02	218	4.04	-	-	14	1.40	-	-	-	-	2	0.18
岐阜県	1	0.02	231	4.91	12	0.26	155	3.30	1	0.09	11	1.00	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	814	9.69	33	0.39	222	2.64	-	-	19	0.95	-	-	1	0.13	1	0.13
愛知県	2	0.01	1113	6.12	70	0.38	389	2.14	-	-	82	2.34	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	332	7.38	2	0.04	79	1.76	-	-	6	0.50	-	-	-	-	-	-
滋賀県	2	0.06	225	7.03	10	0.31	69	2.16	-	-	5	0.71	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	440	5.79	15	0.20	136	1.79	1	0.06	11	0.61	-	-	-	-	-	-
大阪府	3	0.02	1097	5.65	39	0.20	375	1.93	2	0.04	28	0.54	-	-	-	-	2	0.17
兵庫県	1	0.01	987	7.83	11	0.09	187	1.48	-	-	43	1.26	-	-	-	-	-	-
奈良県	1	0.03	298	8.51	20	0.57	50	1.43	-	-	9	1.00	1	0.17	-	-	2	0.33
和歌山県	-	-	291	9.39	2	0.06	81	2.61	-	-	-	-	-	-	1	0.09	2	0.18
鳥取県	1	0.05	87	4.58	1	0.05	6	0.32	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.40
島根県	-	-	152	6.61	5	0.22	28	1.22	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.02	345	6.39	10	0.19	61	1.13	-	-	16	1.33	-	-	-	-	-	-
広島県	7	0.09	684	9.12	28	0.37	87	1.16	4	0.20	30	1.50	1	0.05	-	-	4	0.19
山口県	-	-	149	3.04	14	0.29	87	1.78	-	-	9	1.00	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	290	12.61	8	0.35	50	2.17	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	293	9.16	6	0.19	108	3.38	-	-	5	1.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	362	9.28	2	0.05	102	2.62	-	-	13	1.86	-	-	-	-	-	-
高知県	1	0.03	156	5.03	-	-	6	0.19	1	0.33	11	3.67	-	-	-	-	-	-
福岡県	1	0.01	311	2.96	68	0.65	476	4.53	-	-	84	3.50	-	-	-	-	3	0.20
佐賀県	-	-	56	2.43	7	0.30	116	5.04	-	-	2	0.50	-	-	-	-	1	0.17
長崎県	-	-	45	0.94	15	0.31	59	1.23	9	0.90	39	3.90	1	0.07	-	-	1	0.07
熊本県	2	0.04	112	2.29	31	0.63	120	2.45	-	-	25	2.78	-	-	-	-	11	0.73
大分県	2	0.06	119	3.31	16	0.44	97	2.69	-	-	7	1.40	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.03	83	2.24	29	0.78	91	2.46	-	-	10	2.50	-	-	1	0.14	2	0.29
鹿児島県	-	-	46	0.77	13	0.22	118	1.97	2	0.33	6	1.00	-	-	-	-	6	0.50
沖縄県	5	0.15	2	0.06	72	2.12	81	2.38	-	-	16	1.60	-	-	-	-	1	0.14

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年28週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	81	0.17	3	0.01	33	0.07
北海道	1	0.04	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	2	0.10	-	-	-	-
宮城県	4	0.33	-	-	1	0.08
秋田県	4	0.50	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	1	0.14
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.14	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	1	0.11	1	0.11
千葉県	-	-	-	-	1	0.08
東京都	-	-	-	-	9	0.36
神奈川県	-	-	-	-	4	0.36
新潟県	1	0.08	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	1	0.20
福井県	2	0.33	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	1	0.25
静岡県	4	0.50	-	-	1	0.13
愛知県	9	0.69	-	-	-	-
三重県	3	0.33	-	-	-	-
滋賀県	3	0.43	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	3	0.25	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	1	0.07
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	3	0.27	-	-	1	0.09
鳥取県	3	0.60	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	7	1.40	-	-	-	-
広島県	2	0.10	-	-	-	-
山口県	3	0.33	-	-	-	-
徳島県	1	0.17	-	-	-	-
香川県	1	0.20	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-
高知県	3	0.38	-	-	-	-
福岡県	12	0.80	-	-	3	0.20
佐賀県	2	0.33	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	2	0.13	-	-	2	0.13
大分県	2	0.20	-	-	-	-
宮崎県	1	0.14	2	0.29	-	-
鹿児島県	2	0.17	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	6	0.86

感染症週報 第3巻、第28号 平成13年7月27日発行
発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
TEL：03-5285-1111
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html
<国立感染症研究所 感染症情報センター>
http://www.mhlw.go.jp/
<厚生労働省>
http://www.forth.go.jp/
<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。